

M
I
N
A



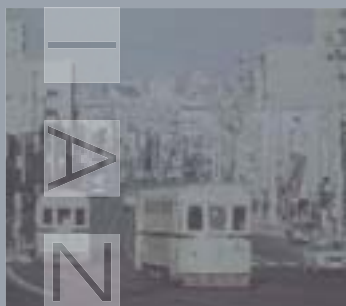
C
U
L
T
U
R
E

R
E
A
T



C
N

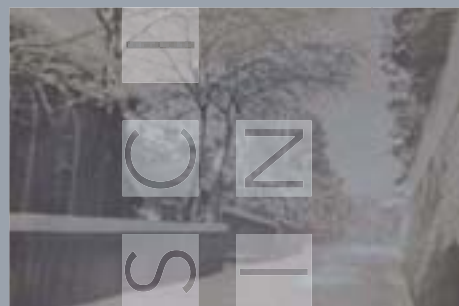
M
O
T
O
A
Z
A
B
U
E



P
P
O



H
O
T
O



S
I
C
N

A
Z
A
B
U
D
A
I
S

B
U
H
-
S
T
O
R
Y
S
H
I

麻 布 未 来 写 真 館

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
活動の記録(平成21年度～平成26年度)



A
Z
A
B
U
J
U
B
A
N



B
U

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

はじめに

麻布未来写真館とは

平成 21 年度から港区麻布地区総合支所では、区民や大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」を開始しました。

麻布地区の写真という資料を保存・収集していくことにより、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承し、将来に向けて活用していくことを目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

平成 27 年 3 月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

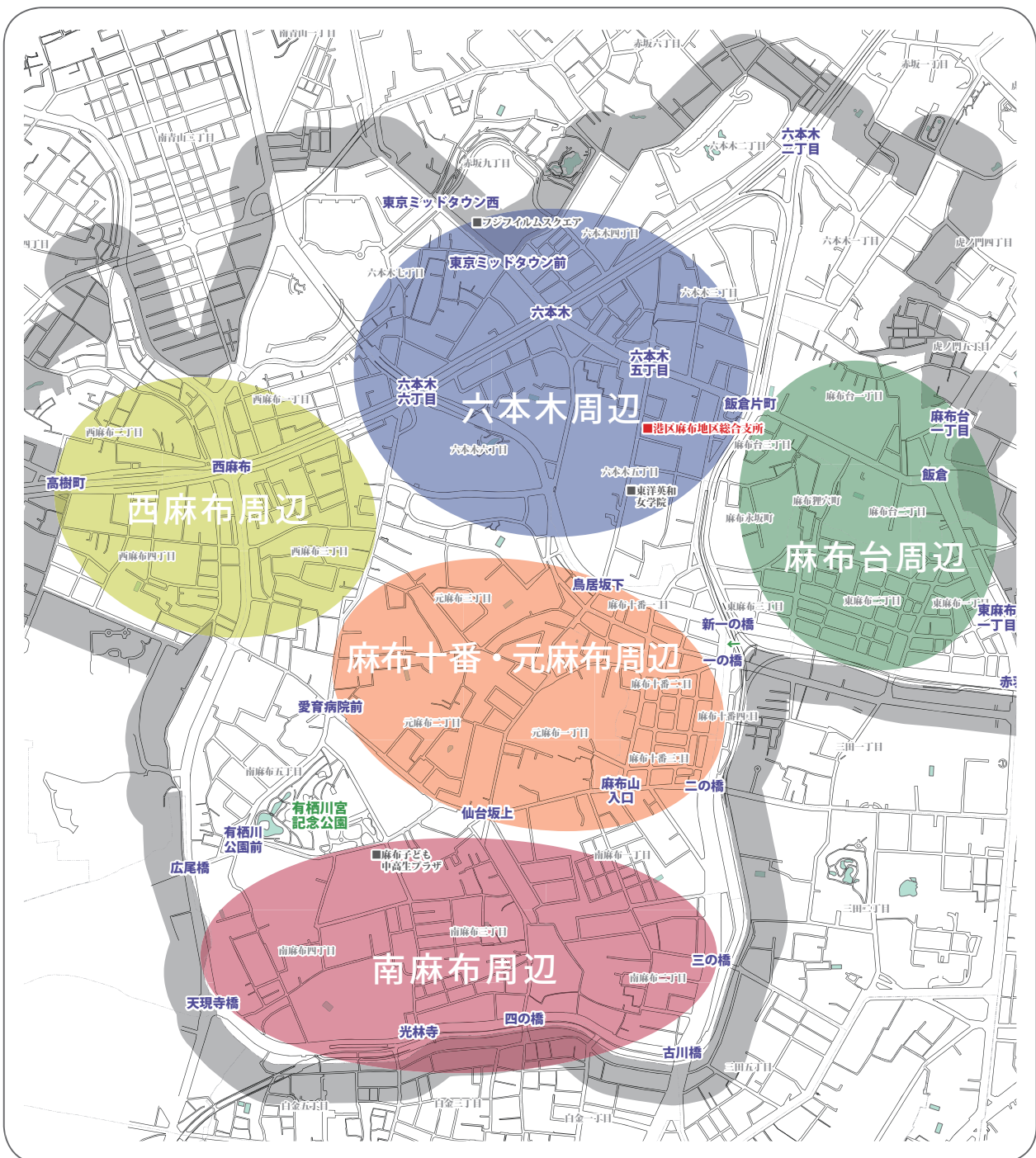
はじめに	01
I . 分科会メンバー作成パネルの紹介	02
パネル目次	03
II . 分科会活動の概要	105
III . パネル展の開催	106
IV . 携わった方々の声	112
V . 参考資料	114

この冊子は、平成 21 年度から平成 26 年度までの 6 年間の活動で作成したパネルをまとめたものです。

I. 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「I. 分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



パネル目次

六本木周辺	04
麻布台周辺	35
西麻布周辺	46
麻布十番・元麻布周辺	57
南麻布周辺	66
古い写真	73
歴史や文化	78
科学と自然	92
その他	98

<写真について>

作成した多くのパネルで新旧の比較を行っているが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていない。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図とした。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えている。



昭和初期

出典：昭和御大礼奉祝志

大衆化してきた活動写真も、六本木映画館の開業とともに、この付近の人々に新しい娯楽を与えてくれた。



平成 21 年

映画館は、今では銀行と携帯電話の販売店。

作成年度：平成 21 年度

写真上：昭和初期 ◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：昭和御大礼奉祝志)

写真下：平成 21 年(2009 年)

芋洗坂（六本木5、6丁目）



昭和 38 年

出典：みなと写真散歩

芋間屋があったためにこの名が付いた。朝日神社の先を麻布警察署の裏へ上がる道を言う。六本木交差点への道は明治時代中期以降に出来たものである。



平成 21 年

昔も今も郵便ポストの位置は変わっていない。電線のない電柱が見られるのは今だけ。近々には抜柱され電線地中化及び道路整備工事も完了する。

作成年度：平成 21 年度

写真上：昭和 38 年(1963 年)

◇写真提供：港区立港郷土資料館（出典：みなと写真散歩）

写真下：平成 21 年(2009 年)



昭和 29 年

龍土軒は、明治 33 年（1900 年）に麻布新竜土町に開業した、当時としてはまだ珍しかったフランス料理店。田山花袋、蒲原有明、国木田独歩らがここを利用し龍土会と称した。

もともと画家、美術史家たちが常連であったが、麻布軍人町のご真ん中だったため、将校、将官等の利用が多く、昭和 11 年の 2.26 事件のころに青年将校たちの会合に用いられた事で有名。



昭和 39 年

出典：みなと写真散歩

明治時代からの藝術と国家変遷の生きた歴史であったが、現在は西麻布に移転し、跡地には別の新たなビルが建築中。



平成 21 年

作成年度：平成 21 年度

写真上：昭和 29 年（1954 年）

◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真中：昭和 39 年（1964 年）

◇写真提供：港区立港郷土資料館（出典：みなと写真散歩）

写真下：平成 21 年（2009 年）

飯倉片町（六本木5丁目）



昭和16年

出典：麻布区史

武者窓造り（縦に太い格子の入った窓）のお屋敷が残っていた。



平成21年

ビルが並び路面には中華料理店やカフェが軒を連ねる。

作成年度：平成21年度

写真上：昭和16年(1941年)

◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：麻布区史)

写真下：平成21年(2009年)

昭和6年

鳥居坂は、江戸時代から大名屋敷のあったところで、その静かな雰囲気は現在も受け継がれている。



出典：麻布鳥居坂警察署誌



平成21年

今はインターナショナル、ハイテク、エコ、バリアフリーに対応した“ちいばす”が走る。

作成年度：平成21年度

写真上：昭和6年(1931年) ◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：麻布鳥居坂警察署誌)

写真下：平成21年(2009年)

国立新美術館（旧東大生研）



明治 40 年

出典：東京写真帖



昭和 37 年

写真提供：東京大学生産技術研究所

平成 21 年



東京大学の附置研究所である生産技術研究所は、昭和 37 年（1962 年）に六本木の旧歩兵第三連隊兵舎へ移転し、平成 13 年に駒場第 2 キャンパスへ移転するまで立地していた。

また、隣地を昭和 32 年より拠点としていた同物性研究所は、平成 12 年に柏キャンパスに移転した。



昭和 63 年

写真提供：東京大学生産技術研究所

その後、東大物性研跡地には平成 17 年に政策研究大学院大学が立地し、東大生研跡地には平成 19 年に国立新美術館が開館した。



手前が政策研究大学院大学、奥が国立新美術館。

←政策研究大学院大学から国立新美術館を望む。

作成年度：平成 21 年度

写真左上：明治 40 年（1907 年）

◇写真提供：港区立港郷土資料館（出典：東京写真帖）

写真左中：昭和 37 年（1962 年）

◇写真提供：東京大学生産技術研究所

写真左下：平成 21 年（2009 年）

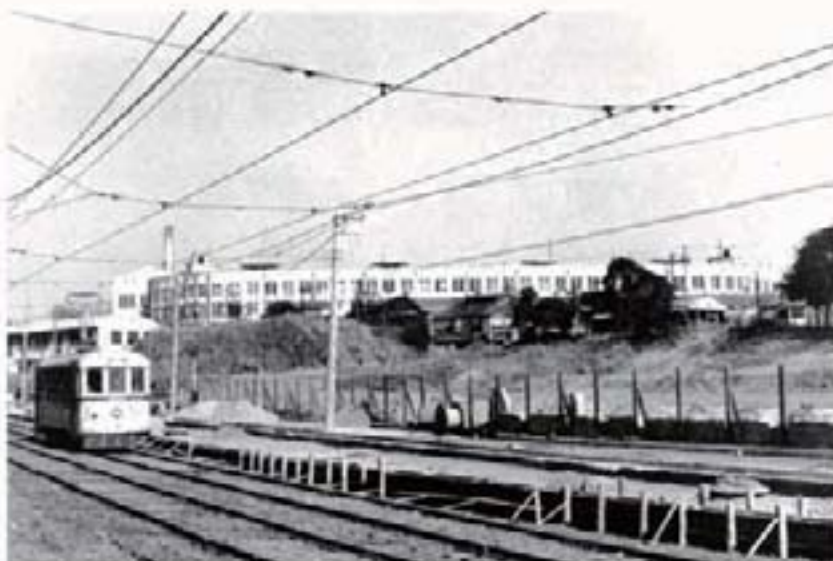
写真右上：昭和 63 年（1988 年）

◇写真提供：東京大学生産技術研究所

写真右下：平成 21 年（2009 年）

六本木周辺

ヘリポート前の空（六本木7丁目）



昭和 37 年

出典：みなと写真散歩

昭和 33 年（1958 年）に在日米軍が接收解除した後の新電土町。右手は現在の都立青山公園、奥には旧歩兵三連隊兵舎（昭和 37 年に東京大学生産技術研究所が移転）の建物が見える。

都立青山公園は、昭和 45 年（1970 年）に整備・開園されたが、大部分は在日米軍赤坂プレスセンター（星条旗新聞社）及びヘリポートに占有されている。



平成 21 年

現在、都立青山公園からは、ヘリポートを挟み政策研究大学院大学と六本木ヒルズの間にある青い空を望むことができる。

作成年度：平成 21 年度

写真上：昭和 37 年（1962 年）

◇写真提供：港区立港郷土資料館（出典：みなと写真散歩）

写真下：平成 21 年（2009 年）



昭和 37 年

出典：みなと写真散歩

テレ朝通りから当時の材木町交差点を望む。道の左右、正面には小さな商店が軒を連ねる。



平成 21 年

現在のテレ朝通りと六本木6丁目交差点付近。
小さな商店はなくなり、ビルが立並ぶ。



作成年度：平成 21 年度

写真上：昭和 37 年(1962 年)

◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：みなと写真散歩)

写真下：平成 21 年(2009 年)

六本木周辺

東京大学物性研究所（現 政策研究大学・国立新美術館）



平成 11 年：六本木上空から



平成 23 年：六本木ヒルズから
周りに高い建物が建って、景色も一変している。

東京大学六本木キャンパス(イメージ)
物性研は平成 11 年(1999 年)まで、
六本木に居を構えていた。

- ①物性研 A 棟(左)平成 10 年頃。(右)平成 23 年：今はモダンな政策研究大
学物性研が占拠し、多くの留学生も学んでいる。
- ②物性研 Q 棟(左)平成 10 年頃。(右)平成 22 年：棟の一部が国立新美術館
の別館として稼働している。
- ③法門(左)平成 10 年頃。(右)平成 23 年：最先端科学の研究所は順に稼働し、
今は政策研究のスペシャリストも育成している。
- ④法門から(左)平成 10 年頃。(右)平成 23 年：冷泉湖は夏になると、プー
ル代わりに遊んでいる人もいた。
- ⑤テニスコート 平成 10 年頃(季節の1画が物性研のテニスコートだった。
⑥中庭 平成 11 年：ウサギや大きな尻尾の猫が住んでいた。

このPPTは「11」で制作された。東京大学物性研究所(長谷川幸雄氏)

作成年度：平成 22 年度

写真左上：平成 11 年(1999 年) 六本木上空から ◇写真提供：東京大学物性研究所(長谷川幸雄氏)

写真右上：平成 23 年(2011 年) 六本木ヒルズから

写真下(左列及び一番下段)：平成 10 年(1998 年)頃 ◇写真提供：東京大学物性研究所(長谷川幸雄氏)

写真下(真ん中列)：平成 23 年(2011 年)

六本木七丁目（東京ミッドタウン西交差点）



平成 10年(1998年)頃: 東京ミッドタウンがオープンする以前の風景(現在の東京ミッドタウン西交差点)



平成 23年(2011年)
東京ミッドタウンのオープン後、向かい側に建てていたマンションを含めたいくつものビルが取り壊された。現在は、暫定的に外国車のショールームとなっている。
国立新美術館への入口となるこの交差点周辺は、今後、道路も拡張され、大規模な再開発が予定されている。

作成年度：平成 24 年度

写真上：平成 10 年(1998 年)頃 東京ミッドタウンがオープンする以前の風景(現在の東京ミッドタウン西交差点)

写真下：平成 23 年(2011 年)



平成 9年(1997年)頃: 防衛庁



平成 23年(2011年): 東京ミッドタウン

江戸時代、毛利家の下屋敷であったこの地は、その後、日本陸軍歩兵第一連隊の兵舎として利用されていた。終戦後は、連合国の占有を経て、長年の間「防衛庁」があった。
平成 19年(2007年)に東京ミッドタウンがオープンし、これまでにない賑わいを見せている。

作成年度：平成 24 年度

写真上：平成 9 年(1997 年) 防衛庁

写真下：平成 23 年(2011 年) 東京ミッドタウン

東京大学生産技術研究所→国立新美術館



昭和 57年(1982年)：東京大学生産技術研究所・東京大学物性研究所

写真提供：小山浩氏

昭和 3年(1928年)に日本陸軍の歩兵第三連隊の兵舎として竣工したこの建物は、昭和 11年(1936年)まで陸軍が駐屯、まさに軍隊のまち「麻布」の象徴であった。
終戦後は連合軍が接收、昭和 37年(1962年)から東京大学生産技術研究所(一部は物性研究所)として利用されていた。



平成 23年(2011年)：国立新美術館

東京大学生産技術研究所は、平成 13年(2001年)に駒場キャンパスへ移転。
建物は取り壊され、現在は国立新美術館になっている(建物の一部は記念に残され、別館として利用されている)。

作成年度：平成 24 年度

写真上：昭和 57 年(1982 年) 東京大学生産技術研究所・東京大学物性研究所 ◇写真提供：小山浩氏

写真下：平成 23 年(2011 年) 国立新美術館



昭和 57年(1982年)

かつて芋洗屋があったことから、この名前が付いたと言われる。

写真提供：港区港郷土資料館



平成 18年(2006年)

六本木交差点と六本木ヒルズを結ぶ道であるが、この頃は電線地中化前で、歩道も狭く歩きにくかった。画面の奥には、既に東京ミッドタウンが建っている。

写真提供：港区港郷土資料館



平成 23年(2011年)

電柱と電線がすべて地下に埋められ、歩道も広くなり、街路灯やボラード(車止め)等も新しく整備された。

写真提供：港区港郷土資料館

作成年度：平成 24 年度

写真上：昭和 57 年(1982 年) ◇写真提供：港区港郷土資料館

写真左下：平成 18 年(2006 年) ◇写真提供：港区港郷土資料館

写真右下：平成 23 年(2011 年)

東京タワー



昭和 57年(1982年)

写真提供：六本木商店街振興組合

東京タワーは昭和 33年(1958年)に竣工した電波塔で、地上 333mは自立型建造物高さ日本一を誇っていた。



平成 23年(2011年)

スタイルも少し変わり、照明イメージは大きく変わったが、今も変わらず東京のシンボルである。手前に見えるまちの夜景も変わった。



平成 24年(2012年)：昼間の景色

作成年度：平成 24 年度

写真左上：昭和 57年(1982 年)

◇写真提供：六本木商店街振興組合

写真右上：平成 23年(2011 年)

写真下：平成 24年(2012 年)

六本木周辺

文人の足跡をたずねて（龍土軒）



平成 24年(2012年)：龍土軒発祥の地[六本木 7-4-4]



昭和 56年(1981年)：
龍土軒遠景

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

美術評論家の岩村透が麻布龍土町のフランス料理店「龍土軒」で開いていた洋画家たちのサロンに、若い文字者たちが合流するがたちで、明治 37年(1904年) 11月から「龍土会」が始まった。龍土会には国永田鉄歩、田山花袋、島崎藤村、正宗白鳥、徳田秋声など当時の文豪たちも参加し、芸術談義を交わした。当時の自然主義作家のほとんどが来会したので、「自然主義は龍土軒の灰皿の中から生まれた」とさえ言われた。龍土軒は現在は西麻布に移転している。



平成 24年(2012年)



昭和 56年(1981年)：龍土軒近景

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

龍土軒の歴史 | 龍土軒の人物 | 龍土軒の歴史 | <http://www.rikkyu.com/rikkyu/01/01/01/>

「龍土軒」の歴史 | 龍土軒の人物 | 龍土軒の歴史 | <https://www.mitsubishi.com/rikkyu/rikkyu/01/01/01/>

作成年度：平成 24 年度

写真左上：平成 24 年(2012 年) 龍土軒発祥の地(六本木 7-4-4)

写真右上：昭和 56 年(1981 年) 龍土軒遠景 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真左下：平成 24 年(2012 年)

写真右下：昭和 56 年(1981 年) 龍土軒近景 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

高いところから麻布



昭和 39年(1964年)：六本木五丁目付近

左側に見える広い道路は現在の永坂。その後、ここに高速道路が作られた。中央を縦に走る道は、南布地区総合支所の正堂出入口がある鳥居坂通り。左手に東洋英和女学院の校舎と校庭。右手には国際文化会館の建物と庭園が見えている。



星屋方面



谷町ジャンクション方面



六本木ヒルズ方面



麩番坊谷方面



平成 24年(2012年)：六本木五丁目

ロアビル上層階より、ほぼ同じ方向で撮影。



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 39 年(1964 年) 六本木五丁目付近 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真右上(4 点とも)：平成 24 年(2012 年) アークヒルズ仙石山森タワーから

写真左下：平成 24 年(2012 年) 六本木五丁目(ロアビル上層階から撮影)

鳥居坂ものがたり

港区麻布地区総合支所や東洋英和女学院が置かれるここ鳥居坂周辺は、江戸から明治・大正・昭和にかけての歴史文化に深く関わる人びとの屋敷や施設が置かれ、近代の日本において、極めて特筆すべき地区である。「麻布実業写真館」の事業「鳥居坂ものがたり」として、その一端を残された写真と共に振り返りかえって見ることとした。

外苑東通りと鳥居坂

外苑東通りは江戸時代、お城の西に位置し、尾根道としての地形的環境(周囲よりも高い位置にある)から武家屋敷が軒を連ねた、尾根道として着手はすぐに低地に向かってしまう中で、鳥居坂へのこの道は現六本木5丁目交差点から約500mの間、その高さを維持する珍しい通りであった。ゆえに外苑東通り同様、大名や武家屋敷が置かれていた。

当時の鳥居坂周辺地区の特色

1. 江戸時代、大名や武家屋敷が並ぶ一方、坂下には町人の家が並ぶような地形的配置となっていた。
2. かつて大名屋敷であった広大な土地が、明治維新後、封問等に払い下げとなり、三井、三菱、住友の三財閥の関係者が顔をそろえることとなった。
3. 同じく、三権部をはじめとする公家や、李王家、久遊宮家などの宮家、といった華族邸が並んだ。
4. 富裕層の人々により、著名建築家・設計者の手による貴重な屋敷や建物が建てられた。

名前由来

右の写真は、現在(平成22年)の鳥居坂である。鳥居坂の名のおこりは、藩長の初期に鳥居(鳥井) 彦右衛門元忠が坂の東側(写真では右側)に屋敷を拝領していたからだといわれている。また、一説では永代神社の二の鳥居があったから、あるいは三の鳥居があったからともいう。



もともと坂はなかった

左の縮図(1673~1681)図によると、この通りは突き当たりであり、鳥居坂はなかった。その後の元禄版の江戸図(元禄12年(1699年))になって、現在の鳥居坂の道が掘られる。これにより、今の鳥居坂ができたのは、元禄の少し前頃、鳥居家の敷地を一部つぶして道としたものと思われる。



作成年度：平成22年度

写真右中：平成22年(2010年)

写真左下(地図)：延宝年間(1673~1681年)

写真右下(地図)：元禄12年(1699年)

麻布小学校 / 麻布区役所

小学校から区役所へ

港区麻布地区総合支所がある場所は以前麻布小学校が置かれていた。

明治 36 年：麻布小学校
 昭和 8 年：麻布尋常小学校
 昭和 10 年：麻布区役所が市兵衛町 2 丁目
 (現在の六本木 3 丁目) から移転
 昭和 22 年：港区役所麻布支所
 (平成 18 年からは麻布地区総合支所)



明治 36 年(1903 年)：麻布小学校



市兵衛町時代の麻布区役所(明治 42 年竣工)

区役所が鳥居坂に移転する際、この建物は、武蔵野市にある日本獣医生命科学大学に移転された。



平成 22 年：日本獣医生命科学大学

昭和 12 年に移転した建物は、戦禍を避け、今も校舎として残存している。



平成 22 年：港区麻布地区総合支所
 ←昭和 10 年(1935 年)頃：麻布区役所

作成年度：平成 22 年度

写真上：明治 36 年(1903 年) 麻布小学校 ◇写真提供：港区立麻布小学校

写真左中：市兵衛町時代の麻布区役所(明治 42 年竣工) ◇出典：港区議会史 通史編

写真右中：平成 22 年(2010 年) 日本獣医生命科学大学

写真左下：昭和 10 年(1935 年)頃 麻布区役所 ◇出典：港区議会史 通史編

写真右下：平成 22 年(2010 年) 港区麻布地区総合支所

ミス・カートメルの来日

カナダ・メソジスト教会(現在のカナダ合同教会)個人伝道会社から派遣された宣教師ミス・カートメルは、明治15年(1882年)横浜に上陸すると、間地明石町に居を構え日本語の学習を始めた。その後日曜学校、バイブルクラスや若い女性の集いの指導を行なった。

東京で宣教活動続けるうちに当時の日本女性が教育を受ける機会に恵まれていない事に気づいた。

東洋英和の発祥

折りしも明治16年(1883年)、カナダ・ミッション(カナダ・メソジスト教会伝道会社)のカックラン、マクドナルドの高氏が東京麻布に学校(男子校)の開設を計画しており、その建設予定地、東鳥居坂町13番地の下、14番地にビール醸造場の跡地があった。

明治17年(1884年)カートメルはマクドナルドの協力を得て、この地に女学校を設立した。



明治18年(1885年)：設立当時の校舎



明治18年(1885年)：東鳥居坂14番地付近
高地には東洋英和学校(男子校)が見える。



平成22年：鳥居坂下付近

鳥居坂の通りへの移転

東洋英和学校(男子校)は明治28年(1895年)、普通科生徒によって麻布尋常中学校を設立した。明治33年(1900年)9月には英和学校から分離、キャンパスを麻布本村町に移して麻布中学校となり、ミッションとの関係を薄めていった。この中学校が現在の麻布学園である。

この時期に東洋英和女学校は現在の鳥居坂の通りに面した場所に移転する。東洋英和女学校の跡地は、明治末年には高木兼寛の所有になっていた。彼は男子校のあった13番地と女学校のあった14番地をまとめて所有、東洋英和学校の旧校地も高木郡という広大な郡宅地へと変換していった。高木兼寛は従軍醫士で海軍軍医總監に任ぜられ、後に現在の東京慈恵会医大を創立、貴族院議員等を歴任し、男爵も授けられている。

©2010年12月27日撮影提供：東洋英和女学院

作成年度：平成22年度

写真左中：明治18年(1885年) 設立当時の校舎 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真右中：明治18年(1885年) 東鳥居坂14番地付近 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真左下：平成22年(2010年) 鳥居坂下付近

東洋英和女学院②

鳥居坂デビュー

現在東洋英和女学院の建っている場所は、17世紀後半から明治維新までの間は戸田家の屋敷であった。その場所(当時の東鳥居坂町8番地)に明治33年(1900年)、木造4階建ての新校舎が開校した。



明治33年(1900年)：東鳥居坂町8番地の新校舎(左右とも)



大正3年(1914年)：真手部分に増築、園舎とし幼稚園を開設した。写真右は平成22年：現在の風景



昭和8年(1933年)：ヴォーリズの設計による新校舎。このころ鳥居坂の通りにはガス灯が設置されていた。

建築家ヴォーリズ設計の新校舎へ

昭和8年(1933年)には、建築家ウィリアム・メルル・ヴォーリズの設計による校舎が完成した。ヴォーリズは明治学院大学礼拝堂など、日本各地で数多くの西洋建築の設計を手懸けた。

ヴォーリズ設計の新校舎は、スパニッシュミッション・スタイルが建築デザインの基調となっており、特に鳥居坂通りに面する西側正面の外観は、斬新のスパニッシュ瓦、外壁の色付きセメント・スタッコ塗り壁を地とし、連続する半円アーチ形窓および出入口が様式的な特徴を表している。また外壁面の所々に配されたレリーフ、飾り窓の手摺り、建物前面を囲いフレーザー状の曲線をつくり空間に連続するロート・アイアンの飾り手摺り(金具類として戦中に供出)など装飾的意匠が表情豊かに配され、格調高い華やかさを添えていた。



手前より幼稚園、伝道館、西洋教師館、寄宿舍「青楓寮」

さらなる発展・拡大

東洋英和女学院は順調に見直し、それにとれない学舎施設の不足が明らかとなった。昭和4年(1929年)、在日本カナダ・メジスト宣教師社団は東鳥居坂町2番地の土地を鍋島桂次郎から購入、東洋英和女学院は新たなキャンパスの建築計画を立てていく。

外鳥居坂通りに面する東鳥居坂町2-1の土地は、明治末年は鍋島桂次郎の所有であるが、同年の地籍図には三井財閥の幹部であった福井菊三郎の名も記されている。新校舎の完成に先立つ昭和7年(1932年)、ヴォーリズの設計による幼稚園、伝道館、西洋教師館ならびに寄宿舍「青楓寮」が竣工した。東鳥居坂2番地の施設等は、昭和15年(1940年)に東洋英和に譲渡され、戦時中の没収を免れた。戦後、在日本カナダ合同教会宣教師社団に譲渡されたが、昭和49年(1974年)に同社団より土地を購入、その後、六本木5-16-5(旧東鳥居坂2番地)の敷地は、昭和55年(1980年)に売却された。



平成22年

（左）FACULTY（右）PRACTICE 和洋英和女学院

作成年度：平成23年度

写真左上(2枚)：明治33年(1900年)東鳥居坂町8番地の新校舎 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真左上中(左)：大正3年(1914年)幼稚園 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真左上中(右)：平成22年(2010年)

写真右上：昭和8年(1933年)ヴォーリズの設計による新校舎 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真右中：寄宿舍「青楓寮」等 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真右下：平成22年(2010年)寄宿舍「青楓寮」があった付近

三重の塔の川崎邸

鳥居坂町 2-1 には二代目川崎八右衛門邸があった。同氏は戦前、川崎金融グループの総帥として第百銀行(昭和 11 年川崎第百銀行から改称)、日本火災(現: 損保ジャパン日本興亜)、第百生命等を率いていた。第百銀行は昭和 18 年三菱銀行と合併している。川崎邸にあった三重の塔は関東大震災にも耐えたが、東京大空襲時に消失した。



平成 22 年
塔は現存しないが、堀(三條邸)は今も残っている。



昭和 7 年(1932 年)
奥の三重の塔が川崎邸。手前は建築中の東洋英和女学校。



昭和 7 年(1932 年)
中央部の丸い建物が小田邸の天文台、手前は建築中の東洋英和女学校。

天文台のある小田邸

山尾東の東側、すなわち永塚側の土地(6番地と7-1番地)は三井一家のうちの永塚町家の三井守之助邸があった。しかし、この土地は大正末年には小田貞治邸となっている。三井守之助邸は永塚町 1 番地に移ったのである。小田貞治は土地を入手するや大正 13 年(1924 年)に、アメリカ人建築家ガーディナーの設計による天文台つきの洋館を建築した。小田は三井物産札幌出張所長などをつとめ、北海道で鉱山経営にもあたった。札幌にもガーディナーの設計による邸宅を大正 4 年(1915 年)頃に建てている。その後、札幌で初めての近代的大邸宅である「五番館」を竣工した。五番館は百貨店札幌店となっていたが、平成 21 年(2009 年)9 月末に閉店した。五番館の時代から遡ると 100 年以上に歴史を持つ。



平成 22 年: 現在のフィリピン大使館



昭和 58 年(1983 年)
小田邸は、天文台もそのままに、一時フィリピン大使館として利用されていた。

作成年度: 平成 22 年度

写真左上: 平成 22 年(2010 年)

写真右上: 昭和 7 年(1932 年) ◇写真提供: 東洋英和女学院

写真右中: 昭和 7 年(1932 年) ◇写真提供: 東洋英和女学院

写真左下: 平成 22 年(2010 年)

写真右下: 昭和 58 年(1983 年) ◇写真提供: 小山浩氏

鳥居坂教会



明治から大正時代：新築された麻布教会会堂
場所は、現在の東洋英和女学院東門付近。ここにもガス灯がある。



平成 22 年：当時教会があった場所

永坂孤女院

教会の日常活動として、近隣社会への伝道奉仕活動を展開していた中で、明治 27 年(1894 年)頃までに近隣の貧困児童の教育施設である「恵風学校(恵風女学校)」、「孤女院」が麻布一本松に設立された。

恵風学校が明治 36 年(1903 年)に廃校となった後も孤女院は置かれ、明治 41 年(1908 年)に永坂町 59 番地に新設された「日曜学校」の 2 階に孤女院は移転、名称を「永坂孤女院」とした。

孤女院は、大正 12 年(1923 年)の関東大震災で一時間閉鎖されたが、翌年には再開し、昭和 3 年(1928 年)に「永坂ホーム」と改称した。

鳥居坂教会・永坂孤女院と東洋英和

鳥居坂教会(旧麻布教会)が東洋英和女学校の地続きにあった頃、生徒達は全員、日曜日には麻布教会の聖日礼拝に出席していました。麻布教会で受礼し、卒業後も教会員として深い関わりを持った者も多かったようです。また、恵風学校と永坂孤女院の設立・運営は東洋英和女学校の宣教師、生徒たちの働きによるところが大きかったようです。

日本キリスト教団鳥居坂教会

明治 16 年(1883 年)：マクドナルド宣教師が永坂町 50 番地に「基地教会講義所」を設立。

明治 18 年(1885 年)：同所に「麻布教会堂」新築。

明治 22 年(1889 年)：「麻布教会会堂」新築落成。

大正 12 年(1923 年)：関東大震災で大破損し、同所に再建。

昭和 17 年(1942 年)：法改正に基づき名称を「日本メソジスト麻布教会」から「日本キリスト教団鳥居坂教会」に変更。

昭和 20 年(1945 年)：震災で消失。

昭和 23 年(1948 年)：重久潤斎助(現在の六本木 5-6-15)に教会堂を建設することが決定。

昭和 25 年(1950 年)：新会堂献堂式。



明治 41 年(1908 年)：永坂孤女院

（上）「永坂孤女院」の歴史と現在：東洋英和女学院

作成年度：平成 23 年度

写真上：明治から大正時代 新築された麻布教会会堂 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真中：平成 22 年(2010 年)

写真下：明治 41 年(1908 年) 永坂孤女院 ◇写真提供：東洋英和女学院

麻布地区における洋館

麻布地区には西洋建築の建物がいくつもあった。1980年代には多くの洋館を見ることができた。

六本木5丁目①

島尻街の通りに面している個人宅。平成23年撮影の建物も当年中に取り壊された。



昭和59年(1984年)



昭和59年(1984年)



平成23年

六本木5丁目②

島尻街の通りに面し、かなり最近まで残っていた建物である。



昭和59年(1984年)



昭和59年(1984年)



平成23年

工務店「山崎建設」(写真提供) 小山浩氏

作成年度：平成23年度

写真左上：昭和59年(1984年) 六本木5丁目 ◇写真提供：小山浩氏

写真右上(上)：昭和59年(1984年) 六本木5丁目 ◇写真提供：小山浩氏

写真右上(下)：平成23年(2011年)

写真左下：昭和59年(1984年) 六本木5丁目 ◇写真提供：小山浩氏

写真右下(上)：昭和59年(1984年) 六本木5丁目 ◇写真提供：小山浩氏

写真右下(下)：平成23年(2011年)

六本木と周辺の山坂 なだれ坂



昭和59年(1984年):なだれ坂 坂下の景



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年):なだれ坂 坂下を



平成25年(2013年)



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)



平成25年(2013年)

:なだれ坂 坂下から

流鏝・奈太礼・長壺などを書いた。土崩れがあったためか、幸国(寺)坂、市兵衛坂の別名もあった。

参考資料:港区産業観光ネットワークMEXATOからと<http://www.mimuro-aka.net/>など
この1冊に収められている古い写真については、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏



作成年度:平成25年度

写真左上:昭和59年(1984年) なだれ坂 坂下の景 ◇写真撮影:田口政典氏 / 写真提供:田口重久氏

写真右上:平成25年(2013年)

写真左中:昭和50年(1975年) なだれ坂 坂下を ◇写真撮影:田口政典氏 / 写真提供:田口重久氏

写真中中:平成25年(2013年)

写真右中:平成25年(2013年)

写真左下:昭和50年(1975年) なだれ坂 坂下から ◇写真撮影:田口政典氏 / 写真提供:田口重久氏

写真右下:平成25年(2013年)

六本木周辺

六本木と周辺の山坂 丹波谷坂 [たんばだにざか]



昭和 59年(1984年)：丹波谷坂 標柱近景



平成 25年(2013年)



昭和 59年(1984年)
：丹波谷坂 坂上から



平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)
：丹波谷坂 坂下から



平成 25年(2013年)

元和年間(1615~1623)旗本阿部丹波守の屋敷ができ、坂下を丹波谷といった。明治初期この坂を開き、各の名から坂の名称とした。

東京都立総合文化センター「六本木」の歴史を学ぶための資料館 <http://www.sompo-museum.com/>
©2014 東京都立総合文化センター「六本木」の歴史を学ぶための資料館



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 59 年(1984 年) 丹波谷坂 標柱近景

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 25 年(2013 年)

写真中中：昭和 59 年(1984 年) 丹波谷坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右中：平成 25 年(2013 年)

写真左下：昭和 50 年(1975 年) 丹波谷坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右下：平成 25 年(2013 年)



昭和 57年(1982年)：寄席坂 坂下から



平成 25年(2013年)



昭和 57年(1982年)
：寄席坂 坂下を



平成 25年(2013年)

坂の途中の北側に明治から大正三年にかけて福井亭という
番館があったために、寄席坂とよびならわすようになった。

本資料は、国土交通省都市計画局「六本木地区の歴史と変遷」(http://www.soumu.go.jp/)
に2014年4月に掲載された内容に基づいて作成されたもので、写真撮影は田口政典氏、写真提供は田口重久氏。



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 57 年(1982 年) 寄席坂 坂下から ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成 25 年(2013 年)

写真左下：昭和 57 年(1982 年) 寄席坂 坂下を ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成 25 年(2013 年)

六本木周辺

六本木と周辺の山坂 芋洗坂 [いもあらいざか]



昭和 62年(1987年)：
芋洗坂 ストライプハウス美術館付近



平成 25年(2013年)



平成 26年(2014年)

正しくは、麻布警察署裏へ上る道をいったが、六本木交差点への道が明治以後にできて、こちらをいう人が多くなった。芋問屋があったからという。

写真資料：国土地理院「東京市街地縮尺1:50,000」(昭和62年)と「東京市街地縮尺1:50,000」(平成25年)を比較し、芋洗坂の位置を示す。芋洗坂の位置は、現在も「芋洗坂」として記載されている。



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 62 年(1987 年) 芋洗坂 ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 25 年(2013 年)

写真下：平成 26 年(2014 年)



昭和50年(1975年)：御組坂 坂上から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)：御組坂 坂下から



平成25年(2013年)



昭和59年(1984年)
：御組坂 標柱近景



平成24年(2012年)

幕府御先手組(おさきてぐみ)戦時の先頭部隊で、常時は放火・盗賊を取り締まるなどの治安維持等を務める)の屋敷が再興にあったので坂名となった。御組坂下付近に永井荷風が住んでいた御宿屋があった(戦災で消失)。



六本木御宿屋跡(永井荷風の住居跡)の位置は、<http://www.sanshoukyo.com/0606>
©2014 六本木御宿屋跡(永井荷風の住居跡)の位置は、写真提供：田口重久氏、写真撮影：田口政典氏

作成年度：平成25年度

写真左上：昭和50年(1975年) 御組坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成25年(2013年)

写真左中：昭和50年(1975年) 御組坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右中：平成25年(2014年)

写真左下：昭和59年(1984年) 御組坂 標柱近景

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成24年(2012年)

六本木周辺

六本木と周辺の山坂 三谷坂 [さんやざか]



昭和 50年(1975年)：三谷坂 坂上から



平成 25年(2013年)



平成 26年(2014年)



昭和 50年(1975年)
：三谷坂 坂上から



昭和 50年(1975年)
：三谷坂 坂上から

アークヒルズの近くの坂で、坂下はもとの麻布谷町である。今「谷町」という名前は高速道路の谷町ジャンクションにしか残っていない。谷町より以前は今井三谷町とよばれていたそうでこれが坂の由来であろう。



東京都港区六本木三丁目一丁目(〒106-0032)の地図を掲載しています。この地図は、Google Earthの衛星写真に基づいて作成されています。地図の著作権は、Googleに帰属します。

作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 50 年(1975 年) 三谷坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 25 年(2013 年)

写真右中：昭和 50 年(1975 年) 三谷坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真中央中：昭和 50 年(1975 年) 三谷坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真左下：平成 26 年(2014 年)

麻布の階段・抜け道（六本木）



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近



平成25年(2013年)：六本木三丁目付近



平成25年(2013年)：六本木三丁目付近



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近



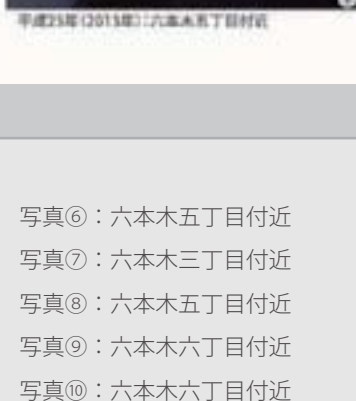
平成25年(2013年)：六本木四丁目付近



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成25年(2013年)：六本木三丁目付近

作成年度：平成 25 年度

写真①：六本木五丁目付近

写真②：六本木三丁目付近

写真③：六本木三丁目付近

写真④：六本木四丁目付近

写真⑤：六本木六丁目付近

写真⑥：六本木五丁目付近

写真⑦：六本木三丁目付近

写真⑧：六本木五丁目付近

写真⑨：六本木六丁目付近

写真⑩：六本木六丁目付近

写真⑪：六本木六丁目付近

写真⑫：六本木五丁目付近

写真⑬：六本木三丁目付近

撮影年：平成 25 年(2013 年)

六本木周辺

六本木周辺の山坂と窪地



昭和50年(1975年)：市三坂 坂下から



平成25年(2013年)：市三坂 坂下から



昭和50年(1975年)：市三坂 坂上から



平成26年(2014年)：市三坂 坂上から



昭和50年(1975年)：
間魔坂 坂下から



平成26年(2014年)：
間魔坂 坂下から



作成年度：平成26年度

写真左上：昭和50年(1975年) 市三坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成25年(2013年) 市三坂 坂下から

写真左中：昭和50年(1975年) 市三坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右中：平成26年(2014年) 市三坂 坂上から

写真左下：昭和50年(1975年) 間魔坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成26年(2014年) 間魔坂 坂下から

日本経緯度原点（麻布台2丁目）

明治40年

日本の天文測量が始まった場所として、科学技術史及び文化史上、意義深い場所。



出典：東京写真帖



出典：東京写真帖

ここには日本の経度・緯度を定める基準となる日本経緯度原点が設置されている。

明治7年、海軍の観象台が置かれた。明治21年に内務省地理局の天文台と合併し、東京帝国大学附属東京天文台となった。原点の位置は、天文観測用に用いられた機器である「子午環」の中心位置にあたる。

その後、大正13年、都市化とともに観測に適さなくなった東京天文台は、現在の三鷹に移転したが、子午環跡は国土地理院が日本経緯度原点として引継ぎ、現在も日本の地図測量の原点として利用されている。



平成21年

現在は、国土地理院関東地方測量部が管理。花崗岩の台石に金属板をはめ、+印の位置地点の表示がある。

※注

東経 139 度 44 分 28 秒 8759
北緯 35 度 39 分 29 秒 1572



作成年度：平成21年度

写真上(2点)：明治40年(1907年) ◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：東京写真帖)

写真下(2点)：平成21年(2009年)

※注 日本経緯度原点は平成23年(2011年)3月11日に起きた東日本大震災により真東に27cm移動したことが記され、その数値は平成23年10月21日に改定されました。

(経度：東経139°44′28″.8869、緯度：北緯35°39′29″.1572、方位角：32°20′46″.209)

麻布台周辺

アメリカンクラブ（麻布台2丁目）



昭和46年

写真提供：東京アメリカンクラブ

現在建築中の2代前の建物。昭和3年（1928年）に設立された東京アメリカンクラブは、昭和29年に麻布台2丁目（当時：麻布狸穴町）に移転してきた。



平成21年

現在はクラブハウスの老朽化に伴い、建替えプロジェクトが進められている。

作成年度：平成21年度

写真上：昭和46年（1971年） ◇写真提供：東京アメリカンクラブ

写真下：平成21年（2009年）



昭和 34 年：赤羽橋



「増上寺塔赤羽根」
 『名所江戸百景』
 初代・歌川広重作
 (改印=安政 4 年 1 月)
 増上寺の一角にあった五重塔をかすめて、赤羽川(古川)の向こうを望む構図。塔は昭和 20 年、戦災で消失した。川の左手に描かれているのは久留米藩・有馬公の上屋敷。後方には同藩の火の見櫓と水天宮(櫓が数本立つ)が見える。
 (*現在の福岡県博多)



(左上)平成 22 年：赤羽橋から麻布方面を望む。
 六本木ヒルズをはじめとする高層ビルが立ち並ぶ。
 (左下)平成 22 年：赤羽橋交差点
 古川の上を首都高速が渡る。上空からは川を見ることができない。

作成年度：平成 22 年度

写真上：昭和 34 年(1959 年) 赤羽橋 ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真左中：平成 22 年(2010 年) 赤羽橋から麻布方面を望む

写真左下：平成 22 年(2010 年) 赤羽橋交差点

写真右中：「増上寺塔赤羽根」『名所江戸百景』 初代・歌川広重作(改印=安政 4 年 1 月)

◇出典：『平成 18 年度特別展 UKIYO-E 一名所と版元一』

麻布台周辺

江戸時代の観光名所 飯倉交差点付近 浮世絵から現代



明治40年：飯倉四辻



平成22年：飯倉交差点
不思議な形をした「NOAビル」。



昭和34年：飯倉交差点



平成22年：赤羽橋へ下る小道の途中で見えた東京タワー。



「飯倉四辻」
『東京名所四十八景』
昇齋一景作(明治4年)
現在の飯倉交差点は交通の要衝であるが、画中には町人や行人など、様々な人びとが行き交う様子が描かれている。絵の左下に見えるのは江戸湾(現東京湾)。



平成22年：飯倉交差点から赤羽橋方面を望む。
右上に見える「319」の表示は、東京都道319号環状三号線の標識。

作成年度：平成22年度

写真左上：明治40年(1907年) 飯倉四辻 ◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：東京案内)

写真右上：平成22年(2010年) 飯倉交差点

写真左中：昭和34年(1959年) 飯倉交差点

写真右中：平成22年(2010年) 赤羽橋へ下る小道の途中で見えた東京タワー

写真左下：「飯倉四辻」「東京名所四十八景」 昇齋一景作(明治4年)

◇出典：『平成18年度特別展 UKIYO-E 一名所と版元一』

写真右下：平成22年(2010年) 飯倉交差点から赤羽橋方面を望む



「赤羽」

江戸「江戸名所図会」港区立港郷土資料館蔵



平成 23 年：六本木ヒルズ展望台から左の「江戸名所図会」の方向に近いように撮影した現在の風景。



昭和 39 年頃：上空から見た六本木 5 丁目付近

港区立港郷土資料館蔵



平成 23 年：浜松町貿易センタービル展望台から麻布方向を望む。

赤羽橋（空からの麻布）

江戸末期に長谷川雪且により描かれた「江戸名所図会」の「赤羽」は、現在の赤羽橋付近を中心に、高所から見下ろしたように描かれ、海が現在と比べ近くにあった様子がうかがわれる。絵図の中央下に見える心光院は移転されている。この絵図から、視点を変えて、高所から見た麻布について着目してみた。



平成 23 年：六本木ヒルズ展望台からの眺め、熱帯魚「カクレクマミノ」との風景。

作成年度：平成 23 年度

写真左上：「赤羽」 ◇出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

写真右上：平成 23 年（2011 年） 六本木ヒルズ展望台から左の『江戸名所図会』の方向に近いように撮影した現在の風景

写真左中：昭和 39 年（1964 年）頃 上空から見た六本木 5 丁目付近 ◇写真提供：東洋英和女学院

写真右中：平成 23 年（2011 年） 浜松町貿易センタービル展望台から麻布方面を望む

写真右下：平成 23 年（2011 年） 六本木ヒルズ展望台からの眺め

麻布台周辺

文人の足跡をたずねて（永井荷風）



昭和 54年(1979年)：
偏奇館跡近景(永井荷風旧居跡)

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

大正 9年(1920年) 麻布市兵衛町一丁目に新築した木造二階家に移り住んだ荷風は、その家がペンキで塗られていたことから「偏奇館」と名づけ、障子・襖・畳のない、台所を広くした洋風の家の中で、隠棲するような暮らしを始めた。
大正 12年には関東大震災が起きましたが、偏奇館は無事だった。昭和初期からは執筆意欲が旺盛になり、『つゆのあどさき』、『ひかげの花』、『運東純譚』など数々の代表作が、ここで生み出された。しかし昭和 20年(1945年) 3月 10日の東京大空襲で消失し、荷風は遺書などほとんどのものを失った。26年にわたる偏奇館時代は終りを告げ、その後荷風が港区に買えることはなかった。現在は庭ガーデンとなり、港区教育委員会の石碑が立っている。
荷風は「偏奇館漫録」と題した文章のなかで、「独居に便なり」「階下に造せり」「独り室に侍るも愁思少し」「椀(を)もむる」に病を養ひ静かに書を読むによし」「午膳を食るによし」などと記している。

制作マナト | 港区中からの人材データベース (<http://www.kohji.com/kyoto/kyoto/kyoto/>)

港区歴史資料データベース | NPO法人まちから (<https://www.city.tama.lg.jp/kyoto/kyoto/kyoto/>)

Copyright © 2011



平成 23年(2011年)：永井荷風旧居跡(六本木 1-6)



昭和 54年(1979年)：
突き当たり右が偏奇館跡

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

作成年度：平成 23 年度

写真左上：昭和 54 年(1979 年) 偏奇館跡近景(永井荷風旧居跡) ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成 23 年(2011 年) 永井荷風旧居跡(六本木 1-6)

写真右下：昭和 54 年(1979 年) 突き当たり右が偏奇館跡 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

文人の足跡をたずねて（島崎藤村）



平成 23年(2011年)：

島崎藤村旧居跡(麻布台 3-4-17)

麻布新倉片町 33番地にあたり、藤村が大正 7年(1918年)から昭和 11年(1936年)まで 18年間住んでおり、名作『夜明け前』はこの間に執筆された。当時発表された『飯倉附近』という随筆で藤村はこのような書いている。「よく見れば、この附近には新開の町なぞにいやな特色の深い小路もある。飯倉二丁目の裏手に隠れてゐる路地。飯倉三丁目にある無野神社の近くから善天文堂(旧天文台)の方へ登らうとする細い坂になった小路などは、私の好きなところだ。舊[田]稲真部の角から我首坊の方へ通る静かな横町も悪くない。途中、この辺の音を語つてゐるのは飯倉一丁目の程木坂であらう。短の名をガンギといふそのいはれはよく分らないが、寛政で往来した時代の名残をそこにありありと見ることが出来る。足を踏みしめ踏みしめ昇降したらしい驚きかきの歩いた路は、あの刻んであるやうな古い石畳みの階段に残つてゐる。」



平成 22年(2010年)：
島崎藤村旧居跡



昭和 50年(1975年)：
島崎藤村旧居跡

※(注)「1」 国史館中央研究所データベース(<http://www.kokugwan.go.jp/1/04/03/>)

※(注)「2」 国史館中央研究所データベース(<http://www.kokugwan.go.jp/1/04/03/>)

作成年度：平成 24 年度

写真上：平成 23 年(2011 年) 島崎藤村旧居跡(麻布台 3-4-17)

写真中下：平成 22 年(2010 年) 島崎藤村旧居跡

写真右下：昭和 50 年(1975 年) 島崎藤村旧居跡

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

麻布台周辺

麻布十番と周辺の山坂 鼠坂〔ねずみざか〕



昭和 59年(1984年) ;
鼠坂 坂下から



平成 24年(2012年)



昭和 50年(1975年) ; 鼠坂 坂下から



平成 24年(2012年)

狸穴公園の麓から麻布台に上
がる細い坂道。上部は榎木坂、
脚(いたち)坂とつながっている。
江戸時代には狭く長い坂を
「鼠坂」と呼んだそうで、文京区
豊羽や新宿区市ヶ谷にも同名
の坂がある。「鬼平犯科帳」の
「麻布一本坂」では、火付盗賊改
方の役人が刺客の浪人とこの
坂で刃を交える。小説でも、実
態と同様の崖沿いの細い坂道
として描かれているので、作者
の波島正太郎は、きっと、この
坂を実見したうえで書いたの
だろう。



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 59 年(1984 年) 鼠坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)

写真左下：昭和 50 年(1975 年) 鼠坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)



昭和 50年(1975年)：三年坂 坂上から



平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)：三年坂 坂下から

坂の名前の由来は定かではない。江戸時代には無名の坂だった。まずこの坂があり、のちに石段になった模様。また、三年坂は別名「三念坂」などとも呼ばれ同じ名前の坂がほかに数箇所ある。



平成 26年(2014年)



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 50 年(1975 年) 三年坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成 25 年(2013 年)

写真左下：昭和 50 年(1975 年) 三年坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成 26 年(2014 年)

麻布台周辺

麻布台と周辺の山坂 土器坂 [かわらげざか]



昭和50年(1975年)：土器坂 坂下から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)：土器坂 坂上から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)
：土器坂 坂下から



平成25年(2013年)



このあたりに土器職人が住んでいたのが坂名となった。また、平安中期の武将源頼朝が、ここで買い求めた馬が河原毛で名馬だったからという説もある。
大正の作家で、三田文学を復活した水上瀧太郎は土器坂上ロシア大使館回りのお嬢様の子だった。「崖上から崖下の子供達を見つめる、一緒に遊びたいが気取れている、無野神社が子供達の遊び場所であった。」(『山の手の子より』)

昭和50年(1975年)の土器坂 坂下から (左)と平成25年(2013年)の土器坂 坂下から (右)の比較写真。写真提供：田口重久氏

作成年度：平成25年度

写真左上：昭和50年(1975年) 土器坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成25年(2013年)

写真左中：昭和50年(1975年) 土器坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右中：平成25年(2013年)

写真左下：昭和50年(1975年) 土器坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成25年(2013年)



昭和59年(1984年):落合坂 坂標柱近景



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年):落合坂 坂上から

我善坊谷へ下る坂で、赤坂方面から往来する人が、行きあう位置にあるので、落合坂と呼んだ。位置に別の説もある。

参考資料: 遊歩在家観光ネットワークMINKATOあらかると(<http://www.minkato.or.jp/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏



平成25年(2013年)



作成年度:平成 25 年度

写真左上:昭和 59 年(1984 年) 落合坂 坂標柱近景 ◇写真撮影:田口政典氏/写真提供:田口重久氏

写真右上:平成 25 年(2013 年)

写真左下:昭和 50 年(1975 年) 落合坂 坂上から ◇写真撮影:田口政典氏/写真提供:田口重久氏

写真右下:平成 25 年(2013 年)



明治 40 年

麻布広尾の古川。川の流れるまち、昔の麻布は川岸の湿潤地帯であった。

出典：東京写真帖

平成 21 年

麻布には、古川の他に筭川（現在は暗渠）が流れている。天現寺橋付近で古川（渋谷川）に合流する筭川は、青山3丁目の梅窓院付近が水源の一つ、根津美術館にも水源を持っている。

左が筭川、右は昔からの道？
（西麻布2丁目付近）



平成 21 年

近くに川が流れ、昔は草原であった場所には、人々の道標ともなっていた庚申塔がたっている。

（西麻布2丁目、南青山4丁目）

作成年度：平成 21 年度

写真上：明治 40 年（1907 年）

◇写真提供：港区立港郷土資料館（出典：東京写真帖）

写真中：平成 21 年（2009 年）

写真下：平成 21 年（2009 年）



昭和 34 年：筭橋跡



昭和 46 年：筭橋跡



平成 23 年：外苑西通りから、牛坂方向。



「筭橋」



平成 23 年：筭橋跡



平成 23 年：交差点の場所が筭橋跡、その先が外苑西通りとの交差点。



平成 23 年：若葉会幼稚園横から筭橋跡、外苑西通り交差点方向。



平成 23 年：麻布露町教会横から、筭橋跡方向。

筭橋跡（こうがい橋）

麻布一本松岡様に、源經基にかかわる伝説を持っており、小さな橋ながら「江戸名所図会」にさし絵が残っている。西麻布付近から古川へ流れる筭川にかかっていた。現在、筭川は埋埋になっているが、水道は、今でもマンホールの下を流れている。筭橋を渡り牛坂へ上って行く途中に、教会や私立幼稚園がある。近くには、この筭橋の名前のついた、筭小学校がある。筭（こうがい）とは、髪をかき上げるのに使った、箸（はし）に似た細長い道具、女性の髪（まげ）に挿して飾りとする道具もある。

作成年度：平成 23 年度

写真左上：昭和 34 年(1959 年) 筭橋跡 ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真右上：昭和 46 年(1971 年) 筭橋跡 ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真左中：平成 23 年(2011 年) 外苑西通りから、牛坂方面

写真中中：「筭橋」 ◇出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

写真右中：平成 23 年(2011 年) 筭橋跡

写真左下：平成 23 年(2011 年) 交差点の場所が筭橋跡、その先が外苑西通りとの交差点

写真中下：平成 23 年(2011 年) 若葉会幼稚園横から筭橋跡、外苑西通り交差点方面

写真右下：平成 23 年(2011 年) 麻布露町教会横から、筭橋跡方向

西麻布周辺

文人の足跡をたずねて（内藤鳴雪）



平成 24年(2012年)：内藤鳴雪居住跡〔西麻布 4-17-18〕

伊予松山藩の藩士として、また教育行政官として働いた後、子供派俳句の重鎮となった内藤鳴雪(1847-1926)は、71歳の時から没年の80歳まで麻布井町に住んでいた。「ホトトギス」をはじめ、多くの雑誌、新聞の俳句選者となり、明治の俳句革新運動に大きな功績を残した。当時、人口に誇美(がいしゅ)した句としては、「夕月や納屋も廻も梅のかけ」が知られている。また、井町在住当時の句としては、「迎へねど年は来にけり七十九」があり、居住の跡には港区教育委員会の案内板が立っている。



昭和 54年(1979年)：内藤鳴雪旧邸跡遠景

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏



平成 24年(2012年)：内藤鳴雪居住跡



昭和 54年(1979年)：内藤鳴雪旧邸跡遠景

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

東京都庁 / 港区総合案内センター / <http://www.tkyo.metro.tokyo.lg.jp/kyakuji/>

港区教育委員会 / 港区教育委員会 / <https://www.education.metro.tokyo.lg.jp/kyakuji/kyakuji.html>

作成年度：平成 24 年度

写真左上：平成 24 年(2012 年) 内藤鳴雪居住跡(西麻布 4-17-18)

写真右上：昭和 54 年(1979 年) 内藤鳴雪旧邸跡遠景 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真左下：平成 24 年(2012 年) 内藤鳴雪居住跡

写真右下：昭和 54 年(1979 年) 内藤鳴雪旧邸跡遠景 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏



昭和59年(1984年):霞坂 標柱近景



平成26年(2014年)



平成25年(2013年)

明治初年に霞山稲荷(現在の稲田神社)から霞町の町名がで
き、そこを貫通する道が明治20年代に開かれて霞坂と呼んだ。

参考資料: 港区産業観光ネットワークMINKATOあらかると(<http://www.minkato-aka.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏



作成年度:平成25年度

写真左上:昭和59年(1984年) 霞坂 標柱近景 ◇写真撮影:田口政典氏/写真提供:田口重久氏

写真右上:平成26年(2014年)

写真左下:平成25年(2013年)

西麻布周辺

西麻布と周辺の山坂 筭坂 [こうがいざか]



昭和50年(1975年):筭坂 坂下から



平成26年(2014年)



昭和50年(1975年):筭坂 坂上から

坂下を流れていた筭川の名からついた付近の地名によって、こう呼ばれるようになった。

参考資料:港区歴史観光ネットワークMINKATOあらかると(<http://www.minato-aka.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏



平成25年(2013年)



作成年度:平成25年度

写真左上:昭和50年(1975年) 筭坂 坂下から ◇写真撮影:田口政典氏/写真提供:田口重久氏

写真右上:平成26年(2014年)

写真左下:昭和50年(1975年) 筭坂 坂上から ◇写真撮影:田口政典氏/写真提供:田口重久氏

写真右下:平成25年(2013年)

西麻布と周辺の山坂 紺屋坂「こんやざか」



昭和50年(1975年)：紺屋坂坂下の景



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)
：紺屋坂坂下から



平成25年(2013年)

この坂付近に紺屋(染物屋)があったのでこう呼んだ。また江戸時代、坂のがけ下がごみ捨て場だったことからごみ坂ともいった。下ってゆくと算(こうがい)小学校の正門に出る。正門の前は五文橋になっていて、角に2000年ころまで「こうがい堂」という文具店があった。文具品ばかりでなく、「たけひこ」や「きびがら」のような工作に使う品物もあり、算小学校の生徒は、皆ここのお世話になったものだ。



昭和50年(1975年)
：紺屋坂坂上を



平成25年(2013年)



※本資料は、国土交通省国土院「都市計画図」を基に作成されています。
 2014年4月現在までの情報です。最新情報は、国土院のウェブサイトをご覧ください。

作成年度：平成25年度

写真左上：昭和50年(1975年) 紺屋坂 坂下の景 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成25年(2013年)

写真左中：昭和50年(1975年) 紺屋坂 坂下から ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右中：平成25年(2013年)

写真左下：昭和50年(1975年) 紺屋坂 坂上を ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成25年(2013年)

西麻布周辺

西麻布と周辺の山坂 牛坂〔うしざか〕



昭和 50年(1975年)：牛坂 坂下から



平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)
：牛坂 坂下から



昭和 59年(1984年)
：牛坂 標柱近景



平成 25年(2013年)



平成 25年(2013年)

源経基（平安中期の武将）や白金長者（室町時代
に白根地区を開墾した柳下上経介）の伝説のある
井橋に続く古代の交通路で、牛車が往来したため
と想像される。

※本資料は、国土地理院の「1:25,000地形図（地形図）」を基に作成されたもので、正確な位置や形状を保証するものではありません。



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 50 年(1975 年) 牛坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 25 年(2013 年)

写真左中：昭和 50 年(1975 年) 牛坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真中央中：昭和 59 年(1984 年) 牛坂 標柱近景

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右中：平成 25 年(2013 年)

写真左下：平成 25 年(2013 年)

西麻布と周辺の山坂 大横丁坂 [おおよこちょうざか]



昭和50年(1975年)：大横丁坂 坂上から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)
：大横丁坂 坂下から



平成25年(2013年)

江戸時代、この付近を俗に大横丁と読んでいたことからこの名が付いた。富士見坂ともよばれていた。

西麻布の歴史を辿る - 1700-1900年代の歴史を辿る - <http://www.city-machida.lg.jp/>より
2014年4月の撮影です。この写真の撮影は、写真家の田口重久氏、写真家の田口重久氏による。



作成年度：平成25年度

写真左上：昭和50年(1975年) 大横丁坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成25年(2013年)

写真左下：昭和50年(1975年) 大横丁坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成25年(2013年)

西麻布周辺

西麻布と周辺の山坂 中坂〔なかざか〕



昭和 50年(1975年)：中坂 坂下から



昭和 50年(1975年)：中坂 坂上から



平成 25年(2013年)



平成 25年(2013年)

テレビ朝日通りを西へ下る坂道。紺屋坂と北斎坂の間にある坂。



本資料は、国土交通省国土院の「都市計画図」に基づき作成されたもので、正確性を保証するものではありません。また、本資料の複製・転載は、ご遠慮ください。

作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 50 年（1975 年） 中坂 坂下から ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 25 年（2013 年）

写真左中：昭和 50 年（1975 年） 中坂 坂上から ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真左下：平成 25 年（2013 年）

麻布の階段・抜け道（西麻布）



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：六本木七丁目付近



平成25年(2013年)：六本木七丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布一丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布一丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：西麻布二丁目付近



平成25年(2013年)：六本木七丁目付近

作成年度：平成 25 年度

写真①：西麻布二丁目付近

写真②：西麻布一丁目付近

写真③：西麻布二丁目付近

写真④：西麻布二丁目付近

写真⑤：西麻布二丁目付近

写真⑥：六本木七丁目付近

写真⑦：西麻布一丁目付近

写真⑧：西麻布二丁目付近

写真⑨：六本木七丁目付近

写真⑩：西麻布二丁目付近

写真⑪：西麻布二丁目付近

写真⑫：西麻布二丁目付近

写真⑬：六本木七丁目付近

撮影年：平成 25 年(2013 年)

西麻布周辺

西麻布の山坂 堀田坂〔ほったざか〕



昭和49年(1974年)：堀田坂 坂上から



平成26年(2014年) 堀田坂 坂上から



昭和49年(1974年)：堀田坂 坂下から



昭和59年(1984年)：堀田坂 坂下から



平成26年(2014年)：堀田坂 坂下から



平成26年(2014年)：
堀田坂 標柱



堀田坂〔ほったざか〕

江戸時代には、大名堀田家の下屋敷に向かって登る道になっていた。

昔から、渋谷駅～日赤医療センター間を結ぶバスが通っていた。元麻布の麻布学園の生徒が渋谷方面に帰る時は、堀田坂をはずで登り、日赤医療センター前からこのバスを使う。近くの東京女子館の生徒と乗り合わせることをほのかに期待しつつ、坂を登る。

©2014 株式会社 西麻布まちづくり協議会

作成年度：平成26年度

写真左上：昭和49年(1974年) 堀田坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成26年(2014年) 堀田坂 坂上から

写真左中：昭和49年(1974年) 堀田坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真中中：昭和59年(1984年) 堀田坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右中：平成26年(2014年) 堀田坂 坂下から

写真下：平成26年(2014年) 堀田坂 標柱

氷川神社（元麻布1丁目）



昭和6年

出典：麻布鳥居坂警察署誌

創建は天慶5年とも文明年間ともいう、万治年間（1658～1661年）に麻布一本松付近（現在地より300m程北）から現地へ移転した。



平成21年

現在は、すぐ後ろに元麻布タワーがそびえる。

作成年度：平成21年度

写真上：昭和6年（1931年） ◇写真提供：港区立港郷土資料館（出典：麻布鳥居坂警察署誌）

写真下：平成21年度（2009年）



昭和34年

がま池という名の由来には諸説あるが、大蝦蟇が積んでいたというのは共通するところである。



平成21年

現在はマンションの一角に囲い込まれて、大半の面積を失っている。

作成年度：平成21年度

写真上：昭和34年(1959年) ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真下：平成21年(2009年)

麻布十番・元麻布周辺

江戸時代の観光名所 善福寺付近 江戸図絵から現代



戦災消失前の本堂

写真提供：港区立港郷土資料館



昭和 34 年：善福寺

写真提供：港区立港郷土資料館



平成 23 年：
現在の善福寺参道から大銀杏方向。

善福寺付近

麻布七不思議にも登場する鎌倉の巨木や、初のアメリカ公使館がおかれていた事でも知られる善福寺。「江戸名所図会」にも残る鎌倉の巨木は逆廻寺として現在も見ることが出来る。

善福寺右手の山の山下には、第二次世界大戦末期、本土決戦用の地下壕が建設され、完成前に終戦となっている。その後、壕は埋め戻された。



平成 23 年：
この突き当たり奥に壕の入口の一つがあった。



「麻布善福寺」

出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

作成年度：平成 23 年度

写真左上：戦災消失前の本堂 ◇写真提供：港区立港郷土資料館(出典：港区の文化財 第 9 集)

写真右上：昭和 34 年(1959 年) 善福寺 ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真左中：平成 23 年(2011 年) 現在の善福寺参道から大銀杏方向

写真右中：平成 23 年(2011 年) この突き当たり奥に壕の入口の一つがあった

写真右下：「麻布善福寺」 ◇出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

麻布十番・元麻布周辺

江戸時代の観光名所 一本松付近 江戸図絵から現代



昭和 34 年：一本松坂



「麻布一本松」



「麻布一本松」

一本松付近

麻布界隈同様、湧き基にまつわる伝説を持っており、江戸時代から明治にかけての絵が伝えられている。
麻布十番交差点から、有栖川宮記念公園方面に山を登った山頂付近に今も立っているが、松は枯れるごとに代々植え継がれ現在に至っている。
この付近の旧地名、一本松町の由来となっていた。



(左)平成 23 年：大黒坂下から一本松方面。



(右)平成 23 年：今も賑わいを見せる大黒坂途中の大黒天。画面中央の高い所の車庫が傾斜地であることを示している。



「麻布一本松の図」



平成 23 年：代々植え継がれてきた松の木。

作成年度：平成 23 年度

写真左上：昭和 34 年(1959 年) 一本松 ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真右上：「麻布一本松」 ◇出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

写真左中：「麻布一本松」 ◇出典：『江戸の華名勝會 麻布』 東京都立中央図書館新収文庫和書所蔵

写真中中：平成 23 年(2011 年) 今も賑わいと見せる大黒坂途中の大黒天。画面中央の高い所の車庫が傾斜地であることを示している

写真中下：「麻布一本松の図」 ◇出典：『新撰東京名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

写真右下：平成 23 年(2011 年) 代々植え継がれてきた松の木

麻布十番・元麻布周辺

麻布十番と周辺の山坂 暗闇坂 [くらやみざか]



昭和 50年(1975年)：暗闇坂 坂上から



平成 24年(2012年)

旧麻布宮下町(現麻布十番一丁目)から旧一本松町(現在の元麻布三丁目と一丁目)へと上る坂道。明治 35年に刊行された『風俗画報 臨時増刊 新編東京名所図会 麻布区之部』でも紹介されている。
『江戸切絵図』(1861年改訂)には「クラヤミ坂」と書かれており、坂上右側にはオーストリア大使館がある。左側は高い崖がつづき、坂道に樹木がおおいかぶさって非常に暗い感じがした。
戦後しばらくはことにさびしく、盗割や痴漢が出没するため、夜など、とても女性や子どもの通れる道ではなかったと言われていた。平成 24年(2012年)に左側の建物が一部解体されたことから、空が広くなった。



昭和 50年(1975年)：
暗闇坂 坂下から



平成 24年(2012年)



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 50年(1975年) 暗闇坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成 24年(2012年)

写真左下：昭和 50年(1975年) 暗闇坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：平成 24年(2012年)

麻布十番・元麻布周辺

麻布十番と周辺の山坂 七面坂〔しちめんざか〕



昭和 50年(1975年)：七面坂 坂下から



平成 24年(2012年)

麻布十番二丁目七番と八番の間にある短い坂道。

数年前まで、坂の東側には本善寺があり、七面天女の木像が安置されていた。現在、本善寺は品川区東五反田三丁目六番一号にある。本善寺は1608年の創立で、七面天女は「麻布十番の七面天」と呼ばれ、毎月、1日と9日の縁日には、たいへんな賑わいを見せたと伝えられている。



昭和 59年(1984年)：
七面坂 坂上から



平成 24年(2012年)



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 50 年(1975 年) 七面坂 坂下から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)

写真左下：昭和 59 年(1984 年) 七面坂 坂上から

◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右下：平成 24 年(2012 年)

麻布十番・元麻布周辺

麻布十番と周辺の山坂 仙台坂上〔せんだいざかうえ〕



昭和 49年(1974年)：仙台坂 坂上から



平成 24年(2012年)



昭和 54年(1979年)：仙台坂 坂上から



平成 24年(2012年)

元麻布一丁目、三丁目と南麻布一丁目の間を東から西へと上る長い坂。
特に坂上近くの傾斜が激しく、麻布十番に一時住んでいた北原白秋は、「仙台坂 石の道を ひきわびて 馬倒れたり 覆れけらしも」と詠んでいる。
かつては坂上に魚店街があり賑わっていたが、今はほとんど残っていない。



写真撮影：桜井昭一氏

作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 49 年(1974 年) 仙台坂 坂上から ◇写真提供：桜井昭一氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)

写真左下：昭和 54 年(1979 年) 仙台坂 坂上から ◇写真提供：桜井昭一氏

写真右下：平成 24 年(2012 年)

麻布十番・元麻布周辺

麻布十番と周辺の山坂（麻布十番商店街）



昭和 48年(1973年)



平成 24年(2012年)

『半七捕り物帳』などで有名な作家・岡本綺堂は関東大震災で焼き出され、その年の年末、知人の紹介で麻布十番に仮住まいしていた。「家の裏は崖であり庭も崖の裾の草垣が押し寄せており何が鬱々している。しかし家があるだけ幸せというものだ。年末の麻布十番の通りは薄い人出で下はぬかるんでおり下手すると転んでしまう。」などと記している(『十番雑記』1924年)。商店街は大震災時の延焼をまぬがれたことから外部からの流入も多く、その後、賑わったという。第二次世界大戦時の空襲で一帯は瓦礫と化した。戦後、地元の人びとの努力によって復旧し、現在に至っている。



昭和 48年(1973年)



昭和 42年(1967年)



平成 24年(2012年)



【写真上段及び中段左】については写真提供：桜井昭一氏、【写真中段右】については写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 48 年(1973 年) ◇写真提供：桜井昭一氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)

写真左中：昭和 48 年(1973 年) ◇写真提供：桜井昭一氏

写真右中：昭和 42 年(1967 年) ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真左下：平成 24 年(2012 年)

麻布十番・元麻布周辺

麻布の交通「麻布十番付近」



昭和 42年(1967年)：二の橋交差点付近
二の橋交差点付近より、麻布十番方面を望む。



平成 24年(2012年)



昭和 42年(1967年)：新一の橋交差点付近
一の橋交差点付近から、新一の橋方面を望む。
建設中の首都高速道路「一ノ橋ジャンクション」。



平成 24年(2012年)



平成 24年(2012年)：一の橋交差点付近(3点とも)



作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 42 年(1967 年) 二の橋交差点付近 ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)

写真左中：昭和 42 年(1967 年) 新一の橋交差点付近 ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右中：平成 24 年(2012 年)

写真下(3 点とも)：平成 24 年(2012 年) 一の橋交差点付近

天現寺橋交差点は、青山方面から南下してきた筭川が渋谷川に合流し、古川と名を変える起点である。天現寺橋は、現在は暗渠となった筭川にも架かる橋であった。



昭和 40 年頃

写真提供：南麻布4丁目 豊田幸雄氏

広尾病院の屋上から天現寺橋交差点を望む。都電 34 番が明治通りを走っている。大正時代には交差点の北西角に都電広尾車庫が開設され、都電の要所となっていた。



平成 21 年

明治通りと外苑西通りが交差し、首都高速の天現寺口があり、今も交通の要所となっている。

作成年度：平成 21 年度

写真左上：昭和 40 年(1965 年)頃 ◇写真提供：南麻布 4 丁目 豊田幸雄氏

写真下：平成 21 年(2009 年)



昭和 34 年：四之橋

江戸時代には、麻布と高輪を結ぶ街道沿いにかかる橋であった。
橋の西北角に土塙藩・土土屋相模守の下屋敷があったことから、当時は相模殿橋と呼ばれることもあった。
(*現在の茨城県土浦市一帯)



「広尾ふる川」
『名所江戸百景』
初代・歌川広重作
(改印＝安政 3 年 7 月)
広尾之原(現在の都立広尾病院
一帯)を背景に、吉川にかかる
四之橋が描かれている。



(右上)平成 22 年：現在の四之橋
(右下)平成 22 年：
欄干に設けられた由来書き

作成年度：平成 22 年度

写真上：昭和 34 年(1959 年) ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真左下：「広尾ふる川」 ◇出典：『名所江戸百景』 初代・歌川広重作(改印＝安政 3 年 7 月)

写真右下上：平成 22 年(2010 年) 現在の四之橋

写真右下下：平成 22 年(2010 年) 欄干に設けられた由来書き

南麻布周辺

江戸時代の観光名所 広尾付近 江戸図絵から現代



平成 5 年：広尾駅入口遠景

写真撮影：田口政典氏



平成 24 年：広尾駅入口遠景



「広尾毘沙門堂(廣尾毘沙門堂)」

出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵



平成 21 年：広尾橋交差点の横断歩道から天現寺交差点方向。



平成 21 年：西洋人が多く集まるオープンカフェ



平成 21 年：広尾神社



「広尾原(廣尾原)」

出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

広尾付近

「江戸名所図会」をみると、毘沙門堂の向こうに広大な野原と古川、界川の流れる田園風景が広がっている。現在の東京メトロ広尾駅付近を流れる界川の縮減が港区と渋谷区の境界となっている。

作成年度：平成 23 年度

写真左上：平成 5 年(1993 年) 広尾駅入口遠景 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：平成 24 年(2012 年) 広尾駅入口遠景

写真左中：「広尾毘沙門堂(廣尾毘沙門堂)」 ◇出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館所蔵

写真右中：平成 21 年(2009 年) 広尾橋交差点の横断歩道から天現寺橋交差点方向

写真左下：平成 21 年(2009 年) 外国人が多く集まるオープンカフェ

写真中下：平成 21 年 (2009 年) 広尾神社

写真右下：「広尾原(廣尾原)」 ◇出典：『江戸名所図会』 港区立港郷土資料館

麻布の交通「古川橋付近」



昭和 44年(1969年)：古川橋交差点

古川橋交差点より明治通り、天現寺橋交差点方面を望む。



平成 24年(2012年)



昭和 44年(1969年)：桜田通り



平成 24年(2012年)

古川橋交差点より、麻布十番方面を望む。新旧写真を比較すると、通り沿いの緑化並木の成長ぶりがうかがえる。



昭和 42年(1967年)：古川橋交差点

昭和42年12月10日撮影。当時の麻布十番交差点の様子。写真提供：田口重久氏



平成 24年(2012年)

古川橋交差点より白金高輪駅方面を望む。白金高輪に向かう国道一号線はこの後に作られた。新電の線路ある道は魚沼坂方面に続いていた。

©2012 by T. Kikuchi

作成年度：平成 25 年度

写真左上：昭和 44 年(1969 年) 古川橋交差点 ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 24 年(2012 年)

写真左中：昭和 44 年(1969 年) 桜田通り ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右中：平成 24 年(2012 年)

写真左下：昭和 42 年(1967 年) 古川橋交差点 ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右下：平成 24 年(2012 年)

南麻布周辺

都電が走っていた頃（二之橋付近）



昭和42年(1967年)



平成25年(2013年)



昭和44年(1969年)



平成25年(2013年)



昭和44年(1969年)



昭和43年(1968年)



昭和44年(1969年)



昭和42年(1967年)



2019年10月27日現在

作成年度：平成 25 年度

このパネルに掲載されている古い写真 ◇写真提供：河村かずふさ氏



昭和 59年(1984年)：北条坂 坂上から



平成 26年(2014年) 北条坂 坂上から



昭和50年(1975年)：北条坂 坂下から



平成26年(2014年)：北条坂 坂下から



平成26年(2014年)：
北条坂より鉄砲坂を望む



平成26年(2014年)：北条坂 標柱



北条坂〔ほうじょうざか〕

坂下近く南側に大名北条家の下屋敷があったためにこの名がついた。三田方面から二之橋、仙石坂を登り、この北条坂を降りるのが青山方面へ行く近道であり、交通量が多い。坂の下の部分を鉄砲坂とも言う。

この4枚の地図はすべて「Google Maps」で撮影されたもので、2014年10月現在のものです。

作成年度：平成 26 年度

写真左上：昭和 59 年(1984 年) 北条坂 坂上から ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 26 年(2014 年) 北条坂 坂上から

写真左中：昭和 50 年(1975 年) 北条坂 坂下から ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真中中：平成 26 年(2014 年) 北条坂 坂下から

写真右中：平成 26 年(2014 年) 北条坂より鉄砲坂を望む

写真下：平成 26 年(2014 年) 北条坂 標柱

南麻布周辺

南麻布の山坂 奴坂・薬園坂・釣堀坂



昭和50年(1975年)：薬園坂 坂上から



昭和50年(1975年)：釣堀坂西から東を望む



昭和50年(1975年)：薬園坂から下る



昭和50年(1975年)：奴坂 坂下から

奴坂(やっこざか)

仙台上から南へ本村保育園を通り過ぎて行くと、右手に小さな公園がある。そこから右に下る坂が奴坂である。名前の由来はこの場所の古い名前、竹が谷の小坂で「谷小坂」、薬王坂のなまりで「やつこう坂」、「奴が付近に多く住んでいた坂」の三説がある。奴坂を下るとまた坂を登ることになり、その先に本村幼稚園と本村小学校がある。昔は奴坂の上の道の向かいに駄菓子屋があった。文房具や爪も売っていた。緑玉拳銃と銀玉を買った記憶がある。

薬園坂(やくえんざか)

麻布の台地から南東に下り、古川の四之橋に達する坂。江戸時代前期にこの辺りに幕府の御薬園があったためこう呼ばれた。薬園は徳川綱吉の頃、白金御殿の拡張のため廃止され、小石川御薬園に移されたという。この付近は東から南に面しているので日当たりが良く、薬草にも適していたのだろう。麻布台地の雰囲気は薬園坂上と言えよう。一帯は今も静かでのんびりした感じであり、鳥の音が大きい。

釣堀坂(つりぼりざか)

薬園坂を下り始めて程なく右に小路がある。最初の道は行き止まり、二つ目が釣堀坂だ。坂は向かいで上りになり、本村小学校へと繋がっていく。付近に釣り堀が2つあったらいいが、今は1つしかない。私の記憶では、昭和39年頃は坂下の横に小さな四角い池があり、春にはオタマジャクシが大量に湧いていた。何匹かいただいて家に持ち帰った思い出がある。当時は、薬園坂から入って左側が石垣だったので、坂を登り下りせず、この上をつたって学校に行こうとしたが、かえって時間がかかってしまった。



作成年度：平成26年度

写真左上：昭和50年(1975年) 薬園坂 坂上から ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右上：昭和50年(1975年) 釣堀坂 西から東を望む ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真左下：昭和50年(1975年) 薬園坂から下る ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真右下：昭和50年(1975年) 奴坂 坂下から ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏



昭和20年代後半：赤羽橋交差点付近



昭和30年代初期：海岸1丁目より



昭和34年：中之橋付近



昭和30年頃：赤羽橋交差点



昭和30年代初期：増上寺より



昭和30年頃：飯倉公園（東麻布1丁目）



昭和30年頃：東麻布1丁目



昭和30年代初期：増上寺より



昭和17年：出征を控えた兵士。善福寺にて



昭和57年：十番会館付近（麻布十番2丁目）



現在の東麻布～麻布十番



昭和43年：一之橋都電停留所



昭和34年：麻布十番4丁目付近



現在の東麻布～麻布十番



昭和34年：十番稲荷神社（麻布十番1丁目）

作成年度：平成22年度

写真①、②、④、⑤、⑥、⑦：東麻布周辺の古い写真 ◇写真提供：相田清隆氏

写真③、⑨、⑩、⑪、⑫：麻布十番、東麻布周辺の古い写真 ◇写真提供：港区立港郷土資料館

写真⑧：出征を控えた兵士。善福寺にて ◇写真提供：善光寺 桜井慧雄氏



昭和 52年(1977年)：旧麻布谷町(六本木三丁目付近)



昭和 50年(1975年)：仙台坂上



昭和 49年(1974年)：
旧麻布消防署(南麻布五丁目付近)



昭和 52年(1977年)：
六本木一丁目付近



昭和 52年(1977年)：
二の橋バス停付近



昭和 43年頃(1968年頃)：天現寺橋交差点



昭和 43年頃(1968年頃)：天現寺橋交差点

作成年度：平成 25 年度

- 写真左上：昭和 52 年(1977 年) 旧麻布谷町(六本木三丁目付近) ◇写真提供：桜井昭一氏
写真右上：昭和 50 年(1975 年) 仙台坂上 ◇写真提供：桜井昭一氏
写真左中：昭和 49 年(1974 年) 旧麻布消防署(南麻布五丁目付近) ◇写真提供：桜井昭一氏
写真中中：昭和 52 年(1977 年) 六本木一丁目付近 ◇写真提供：桜井昭一氏
写真右中：昭和 52 年(1977 年) 二の橋バス停付近 ◇写真提供：桜井昭一氏
写真左下：昭和 43 年(1968 年)頃 天現寺橋交差点 ◇写真提供：豊田幸雄氏
写真右下：昭和 43 年(1968 年)頃 天現寺橋交差点 ◇写真提供：豊田幸雄氏

古い麻布



昭和40年頃(1965年頃)：飯倉片町付近



昭和40年頃(1965年頃)：飯倉片町付近



昭和42年(1967年)：飯倉交差点付近



昭和40年頃(1965年頃)：飯倉片町付近



昭和42年(1967年)：飯倉交差点付近



昭和40年頃(1965年頃)：飯倉片町付近



昭和32年頃(1957年頃)：ツインーの橋 建築前航空写真



昭和42年(1967年)：飯倉交差点付近



昭和40年頃(1965年頃)：飯倉片町付近



昭和32年頃(1957年頃)：ツインーの橋 建築前航空写真



麻布西野園(東麻布商店街)



昭和40年頃(1965年頃)：飯倉片町付近



昭和39年頃(1964年頃)：港区役所南側支所にて



東麻布商店街

この冊子に掲載されている古い写真は、麻布片町付近(写真提供：渡邊 稔子氏)、ツインーの橋(建築前)の写真提供：早川一夫氏、写真撮影：佐藤 翠陽氏、麻布支所前集合写真(写真提供：齋藤 富士郎氏)、飯倉交差点付近(写真提供：河村 かずふさ氏)、東麻布商店街(写真提供：麻布西野園)

作成年度：平成 26 年度

このページに掲載されている古い写真

飯倉片町付近 ◇写真提供：渡邊 稔子氏

ツインーの橋航空写真 ◇写真提供：早川一夫氏、写真撮影：佐藤 翠陽氏

麻布支所前集合写真 ◇写真提供：齋藤 富士郎氏

飯倉交差点付近 ◇写真提供：河村 かずふさ氏

東麻布商店街 ◇写真提供：麻布西野園

古い写真

懐かしい写真（区立小学校）



明治36年(1903年)：麻布小学校(尋常高等小学校時代)



筭小学校 『筭小学校五十年史』(昭和34年刊)より



明治9年(1876年)：南山学院



明治36年(1903年)：麻布小学校(尋常高等小学校時代)



筭小学校旧校舎入り口
(昭和10年に古建築アール・デコより)



明治28年(1895年)：南山尋常高等小学校



昭和4年(1929年)：麻布小学校(昭和4年年度通称)



昭和初期：南山尋常小学校



昭和50年代(1975～1984年)：麻布小学校旧校舎



筭小学校旧校舎(光正14年(1925年)竣工)



昭和初期：旧校舎運動会



昭和58年(1983年)：麻布小学校旧校舎完成



『筭小学校五十年史』(昭和34年刊)より



平成8年(1996年)：南山小学校120周年

©2014港区立麻布小学校、港区立南山小学校、港区立筭小学校、港区立麻布小学校、港区立南山小学校、港区立筭小学校、港区立麻布小学校、港区立南山小学校、港区立筭小学校

作成年度：平成 26 年度

このページに掲載されている古い写真

麻布小学校 ◇写真提供：港区立麻布小学校

筭小学校 ◇写真提供：港区立筭小学校（出典：『筭小学校五十年史』等）

南山小学校 ◇写真提供：港区立南山小学校（出典：『南山小学校開校 120 周年記念』）

懐かしい写真（東洋英和女学院）



明治19年(1886年)：鳥居坂下のまろきみと近の土の東洋英和女学院



大正3年(1914年)：館岡町の宿舎



明治から大正時代：瀬布教会(鳥居坂教会の前身)



昭和19年頃(1944年頃)：六本木五丁目付近



昭和10年代頃：東洋英和女学院付近の空撮



明治から昭和初期：吾闘人新野住宅と給糧園



昭和19年(1944年)：六本木五丁目付近

二枚一枚一枚撮られていたものを一枚の一枚の一枚撮ったものと見られる



昭和13年(1938年)：東洋英和女学院(開校地)に隣接した給糧園



昭和11年(1936年)：雪の降る道

作成年度：平成 26 年度

このページに掲載されている古い写真 ◇写真提供：東洋英和女学院

お江と麻布地区

港区を代表する名刹・増上寺は江戸時代に徳川家の菩提寺として発展しました。家康の三男で後に第二代将軍となる秀忠に嫁いだ「お江」も、夫君と共に増上寺の徳川家墓所に眠っています。
お江が55年の生涯に幕を下ろしたのは寛永3年(1626年)9月15日。亡骸は増上寺から麻布野に設けられた茶室に移され、火葬されました。
麻布地区には、昇列が通ったと言われる我善坊谷、昇儀に尽力した寺院など、お江ゆかりの地とされる場所や史跡が点在しています。

六本木にひっそりと息づく、お江ゆかりの寺院

寛永6年(1629年)、お江の昇儀と三回忌に尽力した教善寺・深廣寺・光善寺・正信寺に寺地が与えられた(正信寺は平成10年に他区へ移転)。



俯瞰でとらえた我善坊谷一帯

地形図(下図参照)で確かめると、一帯が東西に伸びたU字型の窪地になっていることがわかる。



※上記の各寺については、深廣寺以外も原則的に閉まっております。



窪地に設けられた六本木墓苑

戦後の遺精政策に伴い、教善寺・深廣寺・光善寺・正信寺・康順寺(いずれも浄土宗)の墓苑を崩壊跡の跡地に集約、共同墓地とした。



- ①六本木3丁目：両通りを真に向かって進み、急な階段を下る。
- ②階段頂上から首を捻上げると・・・おや、ビルの上に見える？
- ③六本木墓苑のフェンスに沿ってぐるりとまわったところ、道が二手に分かれています。
- ④隠れた小道、私道だが、「墓苑は通り抜けできません」との看板あり。
- ⑤六本木1丁目(アーク六本ビル入り)！「日本国憲法 皇室尊厳の地」の碑。
- ⑥麻布世1丁目！緑の宮中記念公園。
- ⑦着ながらの水道管が軒を渡る数寄屋の一角。
- ⑧墓苑跡の石を壁を築く道を鎌倉道へ上りながら。
- ⑨平成23年1月16日(日)まち歩き・撮影による。



緑(深い色)の部分が高台となっている。



二階F18Aからみたお江の墓苑(「増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体」(東京大学出版会)、「港区お江マップ」(港区観光協会・港区産業振興課)等

作成年度：平成22年度

写真(このパネルに掲載されている全ての写真)：平成23年(2011年)1月16日(日曜日)まち歩き・撮影による

■参考資料：『増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体』(東京大学出版会)、『港区お江マップ』(港区観光協会・港区産業振興課)等

「麻布七不思議」 - 江戸と今 (1)



平成 23年(2011年)：麻布地区総合支所の地下1階にある、江戸時代の「麻布七不思議」を題材にした壁面のレリーフ。「柳の井戸」「狸穴の古洞」「広尾の送り堀子」「善福寺の逆さ横吉」「墓池」「長坂の脚氣石」「一本松」を七つの不思議としてあげている。

◆このほか、かつて「麻布七不思議」に数えられた主なもの
東町の真石、六本木、狸穴の婿礼、大黒坂の扇殺、我善坊の大量、古川の狸懸堂、谷町の遊女屋敷、二本松の赤子、白金御殿の一本足、釜なし横丁、化棒、化狸吉、秋月の羽衣



平成 22年(2010年)：善福寺の参道にある「雨の井戸」。

弘法大師が常陸の鹿島明神に祈願し、手にしていた瑞杖を地面に突き立てたところ、清水が湧き出したとの言い伝えがある。



平成 24年(2012年)



平成 24年(2012年)：かつて洞穴があったと伝えられる狸穴坂下の谷合。写真は、ちょうどそのあたりにある「狸穴公園」。

狸穴という地名はその昔、狸穴坂に狸塚が横む大きな穴があったため、銅を掘り出した「まぶ穴」(坑道の穴)があったため、など諸説ある。



平成 23年(2011年)：大黒坂から見た「一本松」。

天保2年(1831年頃)、平将門を打ち倒した源経基がこの地に来て宿をとった。去るとき、冠装束をこの松にかけていったことから、「冠の松」と呼ばれるようになったとの言い伝えがある。

江戸時代、本所七不思議、番町七不思議などと並んで有名だったといわれる「麻布七不思議」。

奇談や言い伝えなど、七不思議に数え上げられるものは当代の人びとの興味関心によってばらつきがあり、江戸、明治、大正、昭和とさまざまな七不思議が残されている。

ここでは、江戸時代に人びとから評判された「不思議」のうち、麻布地区総合支所地下1階にあるレリーフ、「麻布の七不思議」で取り上げている場所や事物に焦点をあて、それぞれの今の表情を紹介する。

制作年度：「麻布七不思議」を題材にした壁面のレリーフ - 平成23年(2011年) | 善福寺の参道にある「雨の井戸」 - 平成22年(2010年) | 狸穴公園 - 平成24年(2012年) | 大黒坂から見た「一本松」 - 平成23年(2011年)

作成年度：平成 24 年度

写真左上：平成 23 年(2011 年) 麻布地区総合支所の地下1階にある、江戸時代の「麻布七不思議」を題材にした壁面のレリーフ。

写真右上(上)：平成 22 年(2010 年) 善福寺の参道にある「柳の井戸」

写真右上(下)：平成 24 年(2012 年)

写真左下：平成 24 年(2012 年) 狸穴公園

写真右下：平成 23 年(2011 年) 大黒坂から見た「一本松」

■参考文献：『東京都江戸東京博物館研究報告 - 第 5 号』(東京都江戸東京博物館)、『江戸東京伝説散歩』(青蛙房)等



平成 23年(2011年)：善福寺の「逆さ銀杏」。根がせり上がり、枝先が地面に向かって伸びていることからこの名がある。観望聖人が地面に刺した杖から繁茂したともいわれ、「杖屋杏」の別名も。



平成 24年(2012年)：藪の向こうに垣間見える「がま池」。江戸時代、この池は旗本・山崎治正の屋敷の敷地内にある大きな池であった。近隣で火事が起こったとき、池の底である大藪が口から水を吹きかけて鎮火を助け、山崎家の屋敷を守ったという伝説がある。池は昭和期に埋め立てられ、現在はマンションの敷地内に一部が残っている。



平成 23年(2011年)：「脚気石」があったとされる場所。その石に塩をかけて痒むと足(脚)の痺が治るというところから、脚気石と呼ばれるようになったという。



平成 22年(2010年)：「広尾の送り囃子」の舞台となった広尾が原は、今の広尾から南麻布周辺にかけての一番といわれる。その昔、夜中にそのあたりを通ると、どこからともなくお囃子の音が……。はて、こんな夜更けに？ と耳を澄ますと音はすぐ近くで聞こえ、いったいだれが？ と身構えると、今度はどんどん遠ざかっていったとか、狸のいたずらという民も。

写真左端：『東京都江戸東京博物館研究報告 - 第5号』(東京都江戸東京博物館)、『江戸東京伝説散歩』(青蛙房)等

作成年度：平成 24 年度

写真左上：平成 23 年(2011 年) 善福寺の逆さ銀杏

写真右上：平成 24 年(2012 年) 藪の向こうに垣間見える「がま池」

写真左下：平成 23 年(2011 年) 「脚気石」があったとされる場所

写真右下：平成 22 年(2010 年) 「広尾の送り囃子」の舞台となった広尾が原は、今の広尾から南麻布周辺にかけての一番といわれる

■参考文献：『東京都江戸東京博物館研究報告 - 第5号』(東京都江戸東京博物館)、『江戸東京伝説散歩』(青蛙房)等

移築されて今も残る建物（麻布区役所・三井邸）



明治後期～昭和初期：麻布区役所 資料：港区議会史 通史編



平成26年(2014年)：六本木三丁目付近

明治、大正時代の麻布区役所は、現在の港区六本木三丁目に建っていた。

この建物は明治42年(1909年)に建てられた。その後、昭和10年(1935年)に、区役所を六本木五丁目(現麻布地区総合支所が建っている場所)に移すことになり、麻布区役所は新たに建てられた。

三丁目に残された木造の旧庁舎は、日本獣医生命科学大学(旧日本獣医畜産大学)が買い取り、武蔵境駅前の同大学本館として今も使われている。

つまり105年を経てまだ現役の建物である。玄関のポーチベランダ部分が、円形から四角形へ、また全体にシンプルな感じになったが、シルエットに変化はなく、当初の形を残した貴重な建築といえる。



平成25年(2013年)：日本獣医生命科学大学



平成25年(2013年)：三井八郎右衛門邸



平成25年(2013年)：西麻布三丁目付近

西麻布三丁目、テシ朝通りから麻布税務署の角を外苑西通り方面に入ると、集合住宅のまわりをぐるっと一周する道が現れる。現在は集合住宅になっている場所には、昭和27年(1952年)に三井第11代総領家当主・三井八郎右衛門邸があった。各地の三井家関連施設を部分的に移すことで構成された建物は、現在「江戸東京たてもの園」に移築・復元され、三井財閥繁栄の面影を知ることができる貴重な文化財として大切に保存されている。

作成年度：平成 25 年度

写真左上：明治後期～昭和初期 麻布区役所 ◇出典：港区議会史(通史編)

写真右上：平成 26 年(2014 年) 六本木三丁目付近

写真左中：平成 25 年(2013 年) 日本獣医生命科学大学

写真左下：平成 25 年(2013 年) 三井八郎右衛門邸

写真右下：平成 25 年(2013 年) 西麻布三丁目付近

麻布と落語（江戸の茶碗）



平成 23年(2011年)

泉ガーデン上層階から、くず屋の清兵衛が住んでいたとされる旧麻布谷町の方角を望む。住居表示はなくなったが、首都高速3号渋谷線と都心環状線の合流地点、「谷町ジャンクション」(写真中央)の名に残されている。

江戸の落語(あるすじ)

麻布谷町に住む正徳庵のくず屋の清兵衛が自らの運賃(資料券)の折を曲げていると、身物は粗末だが、どこか品のあまる若い娘は時止せられた。娘はついで裏長屋に入ると、父親の友人・千代田ト美から私物を二重皮で買ってくれないかと頼まれる。もし売れたら儲けは約半ということで私物を引き取った清兵衛、私物を箱に入れ、三郎の御用帳の裏面裏の密字を通ると、密がら悪い武士に呼び止められ、武士は私物を三重皮で買った。

買った私物を武士がめる家裏に置いて置いて、お金の字に刻られた紙がはかれて小判一割分出で来た。驚いた武士は買付まに返そうと思ひ、私物を買ったくず屋探しを始める。清兵衛を売った武士は、「御用帳の裏面裏の密字」と告げ、「私物は買ったが小判を売ったお銀は味はない」と、清兵衛に五十両を託しト美のもとに届けさせた。

ところが、「買った私物から何が出ようと、それはもう自分のものではない」とト美も黙るない。買付けた長屋の大家が、基本とト美とで二十両、残り十両を清兵衛以上の村裏を示すが、ト美は納得しない。「お金を受け取るかわり、先方にちにか高物を買い上げてくださいか」との大家のすすめに、ト美はいつも使っている父の形見の茶碗を密字に渡し、ようやく二十両を受け取った。

この落語が途中で評判になり、堀川屋の落語が再興を興たいという。目利きの感度で「江戸の落語」という名称であることがわかり、落語が三両で買上げられ、おかげで清兵衛はまたもやト美と高木の間に買付たり来た。ト美を機に直し上げ、結局がわりなら金を受け取る」という落語でようやくト美は振り向き、清兵衛がそのお銀を伝えると、高木も娘との結婚を承諾、「よい娘です。嫁げば嫁入になりますよ」もう聞くのはよそう、また小判が出してくるといけない。



昭和 52年(1977年)

旧麻布谷町の商店街。道路の左側が六本木1丁目1番、右が1丁目3番、上方の建物はスペイン大使館と思われる。



昭和 48年(1973年)

旧麻布筆置町北寄りの高台から旧麻布谷町を望む。上方に当時の宣海坂教会が見える。



旧麻布谷町は、現在の六本木1・2丁目と赤坂2丁目の一部にあたる。町名が廃止されたのは昭和42年(1967年)、昔ながらの家屋が建ち並ぶ町は首都高速で分割され、大型複合施設や高層ビルの建設が相次ぐなどして、様相は一変した。

参考文献「古地図と名所図会で味わう江戸の落語」(青春出版社)等
旧麻布谷町の写真提供：桜井昭一氏

作成年度：平成 25 年度

写真左上：平成 23 年(2011 年)

写真左下：昭和 52 年(1977 年) 旧麻布谷町の商店街 ◇写真提供：桜井昭一氏

写真右下：昭和 48 年(1973 年) 旧麻布筆置町北寄り高台より旧麻布谷町を望む ◇写真提供：桜井昭一氏

■参考資料：『古地図と名所図会で味わう江戸の落語』(青春出版社)等



昭和50年(1975年)：
絶江坂 坂下から坂上を望む

赤坂2 地区(1974年)、道の東側に曹洞宗(寺うけい)に存徳院から経路、近代和団+絶江がある
で付近の地名となり、順名に変わった。



平成26年(2014年)：
絶江坂 坂下から坂上を望む



平成27年(2015年)：おかめ団子跡
窪いばり(窪)の道(写真右側)が赤坂に連
っている。



平成27年(2015年)：おの
長く、なだらかな坂道を下っていくと中壱に
なる。



平成27年(2015年)：大黒坂
堀の中盤北側に大黒坂を走る大黒寺があ
ったため、こう呼ばれた。大黒寺の境内は開
寛3年(1917年)、今も一本杉の「大黒堂」と
して残されている。



平成27年(2015年)：一本松
大黒坂を上っていくと道を覗す。平安時代中
期の此所+源経基(あなもとのつむもと)など
の伝説もも、古来、縁まつがれた。



赤坂2地区(1974年)の地図と名所図会で味わう江戸の落語(菅野俊輔著・青春出版社)
『志ん朝の落語5 浮きつ沈みつ』(古今亭志ん朝著・筑摩書房)

『黄金餅(にがむもと)』 海らすて
下町の山崎町(に)に西宮という住人がいた。其は長屋に住み、一軒世帯の金
を丸めていたが、風邪を患って倒れてしまふ。そこへ隣に住んでいた絶江
寺僧(に)の金兵衛が心配して見舞いにやってくる。
何か食べたものはなにかとたずねる金兵衛に、あんなに餅を山ほど買つても
らなかつた西宮。「他人が見ていると食べられないから」と言いつつ金兵衛を御に招き、
餅になるのです。金兵衛が餅の旨から病を癒してあると、西宮はなにやら考え込ん
だ様子。じきに壁から河川(新井)を覗し、一針刺しと二分金山の上より取り出す
と、餅の中は詰め込み、次から次へ心奪ひ込んでしまった。餅をのこに隠すら
で買しそつははじけたので、病んでいつて買中を覗いた(凡て)自問するが、西宮
はあつてなく死んでしまふ。

餅の中の金を一人占めにしようと目論む金兵衛、やがて要道所の所に納め、大
黒に事の真相を話すと、息のあるうちに「死んでも許さ所がないから、金兵衛さん
の傍に置いてくれよと頼まれた上付け加える。こうして長屋外側と餅を盗み、金兵
衛の寺・麻布絶江無休村の本堂(聖堂)まで向かうことになった。

一針山崎町から上野の山下で餅で上野の山崎に出ると、御道街道を進み、
神田川にかかる新道門を過ぎて神田から日本橋に向かい、さらに京道をまっす
く進み、新橋の手前で新白、新(道)あたりに上野のところで舟に乗り込んで京
道下に出て、神田町を過ぎて鎌倉で坂を上がり、鎌倉の町の(おかめ)団子、(の)餅
を買って赤坂を下り、十番へ出て大黒坂を上がり、一本杉を経て麻布絶江家無休村の
本堂寺に到着。

本堂寺で餅が神子、餅き場のゆかり(大黒)の御供を受け取ると、ここから
丹は金兵衛一人、亡霊の入つた餅を買ひ、御道を覗き場のある餅+餅へと向
かう。

御道街道の真に、「餅のあつたは御道街道に上りてくれば止りな御道をつくるが、そ
れは餅です。手紙に御道街道を御道に上りて、「かりかたに餅(餅)を買ひ御道」
などとぶつぶつぶ言ひながら、餅し持っていた餅が餅切りの餅を御道に出し、御道
を御道に御道、まうやくやうと光るものを御道に出した金兵衛、御道御道でそれら
をかき集め、餅(餅)に入れて立ち去らうとする。

餅に餅き御道に御道に御道されると、「やなごつた、御道」、御道と御道
るんだと御道されると、「死んでもやうやくやうと光る御道」

ともかく御道街道を御道した金兵衛、御道に御道を出して、たいそう御道したといふ。
江戸の真夜中、御道御道の御道の一景。

- * 山崎町：東京都台東区上野と北と北と
- * 山崎町：麹町区
- * おかめ団子：江戸時代から明治時代まで麻布山崎に実在した団子屋。
- * 御道：品川区西五反田(今も御道がある)。



赤坂2地区(1974年)の地図と名所図会で味わう江戸の落語(菅野俊輔著・青春出版社)
『志ん朝の落語5 浮きつ沈みつ』(古今亭志ん朝著・筑摩書房)

作成年度：平成 26 年度

写真左上：昭和 50 年(1975 年) 絶江坂 坂下から坂上を望む ◇写真撮影：田口政典 氏 / 写真提供：田口重久 氏

写真右上：平成 26 年(2014 年) 絶江坂 坂下から坂上を望む

写真左中：平成 27 年(2015 年) おかめ団子跡 写真右中：平成 27 年(2015 年) 永坂

写真左下：平成 27 年(2015 年) 大黒坂 写真右下：平成 27 年(2015 年) 一本松

■参考文献：『古地図と名所図会で味わう江戸の落語』(菅野俊輔著・青春出版社)
『志ん朝の落語5 浮きつ沈みつ』(古今亭志ん朝著・筑摩書房)

■参考資料：『増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木』(港区立郷土資料館)



平成25年(2013年):氷川神社

『美少女戦士セーラームーン』
 「愛と正義の、セーラー艦隊美少女戦士、セーラームーン」「月に代わって、お仕置きよ!」というセリフで知られている。作者の武内直子氏の出身大学や勤務先が港区だったため、東京タワーやその周辺らしきものが頻繁に登場する理由とも言われている。
 作中の「火川神社」は、仙台坂上に現存する「氷川神社」がモデルと言われている。また、「一の橋公園」は同名の公園がモデルとされている。

【公式サイト】http://sailormoon.channel.or.jp/index_p.html



平成25年(2013年):麻布十番鳥居店街
 ゲームセンターの元になったとも言われるパチンコ店があったあたり



平成26年(2014年):麻布十番鳥居店街
 主人公通も、このあたりで過ごしていたのではないのでしょうか?



通学路(鳥居坂付近)
 ◎平成25年(2013年)撮影(右写真とも)



古いレンガの壁(鳥居坂付近)



鳥居坂にある東洋英和女学院の建物

『大正野球娘』
 大正時代の架空の女子高で野球をする少女達の物語。主人公が通学していた道として鳥居坂が登場する。
 また、実家は、麻布十番の洋食屋、看板娘として登校前と帰宅後などに調理と給仕の手伝いをしている設定が知られている。

【公式サイト】<http://www.tbs.co.jp/anime/talsho/>



作成年度：平成 25 年度、平成 26 年度一部写真変更

『美少女戦士セーラームーン』

作者の武内直子氏の出身大学や勤務先が港区だったため、東京タワーやその周辺らしきものが頻繁に登場する理由とも言われている。作中の「火川神社」は、仙台坂上に現存する「氷川神社」がモデルと言われている。また、「一の橋公園」は同名の公園がモデルとされている。

『大正野球娘』

主人公が通学していた道として鳥居坂が登場する。また、実家は、麻布十番の洋食屋、看板娘として登校前と帰宅後などに調理と給仕の手伝いをしている設定が知られている。

麻布とアニメ (2)



平成25年(2013年):暗闇坂

『東京マグニチュード8.0』
 防災に関係したアニメ作品。台場で大地震にあった主人公が、芝公園～東京タワーの近くを通過して麻布付近から有栖川宮記念公園に向かう。災害時のリアルな描写が印象的な作品。
 主人公が歩いたと思われるルートから、①暗闇坂坂上付近、②たどりついた有栖川宮記念公園、③途中にある、麻布運動場脇の港区防災倉庫。
 【公式サイト】<http://tokyo-m8.com/>



平成25年(2013年)



平成25年(2013年)



平成25年(2013年):麻布十番駅とその周辺



平成25年(2013年):六本木駅



平成25年(2013年):赤羽橋駅



『ミラクル☆トレイン～大江戸線へようこそ～』
 大江戸線の駅が美男子キャラに擬人化されて、ストーリーが展開するアニメ作品。麻布地区からは、六本木駅、麻布十番駅、赤羽橋がキャラクターとなり何度も登場する。
 キャラクターの名前は、駅の番号から付けられている。
 23番 六本木 史(ろっぽんぎ ふみ)こと六本木駅
 22番 麻布十番 双葉(あざぶじょうばん ふたば)こと麻布十番駅
 21番 赤羽橋 隼人(あかばねばし にひと)こと赤羽橋駅
 2009年10月～同年12月までテレビ放送されていた。
 【公式サイト】<http://www.miracle-train.tv/>

作成年度：平成 25 年度

『東京マグニチュード8.0』

主人公が歩いたと思われるルートから、(1)暗闇坂坂上付近、(2)たどりついた有栖川宮記念公園、(3)途中にある、麻布運動場脇の港区防災倉庫。

『ミラクル☆トレイン～大江戸線へようこそ～』

大江戸線の駅が美男子キャラに擬人化されて、ストーリーが展開するアニメ作品。麻布地区からは、六本木駅、麻布十番駅、赤羽橋駅がキャラクターとなり何度も登場する。



昭和 57年(1982年)頃：西町インターナショナルスクール



昭和 57年(1982年)頃：松方ハウス



昭和 57年(1982年)頃：安藤記念教会



平成 23年(2011年)：西町インターナショナルスクール



平成23年(2011年)：松方ハウス



平成 23年(2011年)：安藤記念教会

西町インターナショナルスクール

西町インターナショナルスクールの中心、松方ハウス(写真中)はアメリカ人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により大正10年(1921年)に松方正義と妻美代子の私邸として建てられ、ここでこのスクールの創立者・松方種子や、駐日アメリカ大使ライシャワー夫人となる春子が育つ、その後、各国の公使館、大使館として使用された。昭和40年(1965年)からはスクールの教室および教職員室として活用された。東京都選定歴史的建築物であり、改修工事は行われたが、建物は昔のままである。



平成26年(2014年)：和朗フラット

和朗フラット

麻布台の裏路地の一角に、和朗フラット一号館・二号館・四号館が震災を免れ、今も残る。古くからの一角はスペイン村とも言われ、一帯はモダンな雰囲気を出している。和朗とは「ここに暮らす人が和やかに暮らし、道でせめるようにとの願いを込めてつけられたとの事。

竣工：昭和11年(1936年)頃
設計：上田文三郎 水造アールト



平成26年(2014年)：南部坂教会

南部坂教会

有栖川宮記念公園の向かい側、南部坂に面して建つプロテスタント教会。大正7年(1918年)竣工の水造建物。改修工事が行われ、現在も現設で使用されている。窓や入り口の形にも特徴がある。

安藤記念教会

安藤太郎が駐ハワイ総領事時代に文子夫人とともにクリスチャンとなり、帰国後、大正6年(1917年)、自宅をふくめた全てを教会として献げた。後ろの青い三角屋根のところが大正12年(1923年)に完成された付属幼稚園。建物は今でも当時の姿をとどめている。昭和57年(1982年)には日本建築学会より大正・昭和戦前に建てられた貴重な二千棟のひとつに選ばれた。



麻布地区は、震災や、その後の開発により、古い建物が失われている。麻布未来写真館では、現在まで残されている貴重な建物を訪れ、写真に収めている。その中から、西町インターナショナルスクール、安藤記念教会、和朗フラット、南部坂教会を取り上げた。

©2014麻布未来写真館。写真提供：小山浩氏

作成年度：平成 26 年度

写真左上：昭和 57 年(1982 年)頃 西町インターナショナルスクール ◇写真提供：小山浩氏

写真左中：平成 23 年(2011 年) 西町インターナショナルスクール

写真中上：昭和 57 年(1982 年)頃 松方ハウス ◇写真提供：小山浩氏

写真中中：平成 23 年(2011 年) 松方ハウス

写真右上：昭和 57 年(1982 年) 安藤記念教会 ◇写真提供：小山浩氏

写真右中：平成 23 年(2011 年) 安藤記念教会

写真下(上)：平成 26 年(2014 年) 和朗フラット 写真下(下)：平成 26 年(2014 年) 南部坂教会

武家屋敷・お屋敷跡



平成 26年(2014年)：毛利庭園



平成 27年(2015年)：鳥居坂上



平成 27年(2015年)：麻布郵便局



平成 7年(1995年)：ニッカ池



平成 27年(2015年)：鳥居坂下



平成 27年(2015年)：麻布小学校

六本木ヒルズ・毛利庭園付近

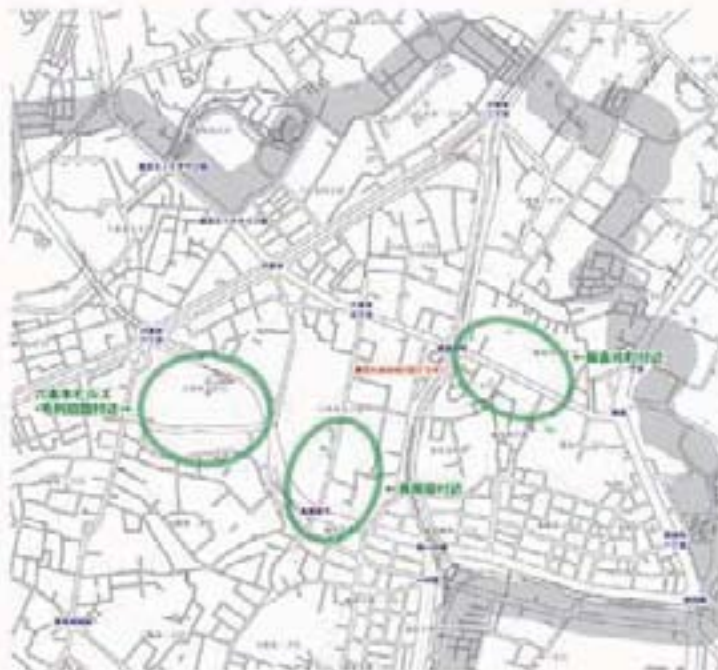
この地には長門府中藩毛利家の上屋敷が置かれた。明治20年(1887年)、増島六一郎(中央大学初代校長)の邸宅となる。昭和27年(1952年)にニッカウマスキー車庫工場、昭和52年(1977年)にはテレビ朝日の敷地となった。平成15年(2003年)に六本木ヒルズがオープン、現在の毛利庭園が誕生した。(現在の山手町下町市一帯)

鳥居坂付近

六本木5-11,5-12の間に位置する鳥居坂の付近は江戸時代、大名や武家屋敷が並び、一方、坂下には商人の町が並ぶような地形的配置となっていた。かつて大名屋敷であった広大な土地が、明治維新後、財閥等に払い下げとなり、三井、三菱、住友の三財閥の関係者、三権部をはじめとする公家や、李王家、久邇宮家などの宮家、といった華族邸が並んでいた。慶長の初期に鳥居坂も幕府元寇が坂下から見て高所に屋敷を拝領していた。また一説では永田神社の二の鳥居あるいは三の鳥居があったとも言われる。

飯倉片町付近

港区麻布台一丁目、飯倉片町交差点付近には、江戸時代、米沢藩上杉家の中屋敷があった。明治時代より現在の日本郵政グループ飯倉ビル、外務省飯倉公館・外交史料館、麻布小学校の一帯には、紀州徳川家の邸宅があった。邸内に「楽藝文庫」「楽藝楽堂」が開設され、一般にも公開されていた。ここに設置されていたパイプオルガンは関東大震災後、旧東京音楽学校(現在の東京芸術大学)に寄贈され、今も同大学、楽楽堂に設置されている。



作成年度：平成 26 年度

写真左上：平成 26 年(2014 年)頃 毛利庭園

写真左下：平成 7 年(1995 年) ニッカ池

写真中上：平成 27 年(2015 年) 鳥居坂上

写真中下：平成 27 年(2015 年) 鳥居坂下

写真右上：平成 27 年(2015 年) 麻布郵便局

写真右下：平成 27 年(2015 年) 麻布小学校



昭和55年(1980年)：麻布校舎玄関



昭和27～40年(1952～65年)：麻布校舎



昭和28年(1953年)：麻布校舎



平成26年(2014年)：法政大学跡地付近



平成26年(2014年)：法政大学跡地付近

中央労働学園大学 → 法政大学社会学部・法政大学工学部
麻布新堀町（現在の港区南麻布2丁目）

法政大学社会学部は昭和26年(1951年)に中央労働学園大学と合併し、昭和27年(1952年)、法政大学社会学部になった。法政大学工学部は法政大学航空工業専門学校(昭和20年(1945年))が前身で、法政大学工業専門学校を経て、昭和25年(1950年)に法政大学工学部が設置され、後に当地に移転。昭和39年(1964年)頃までであった、その頃小金井市視野町に移転し、現在に至る。

上掲写真の撮影は、法政大学史委員会によるものである。



作成年度：平成26年度

写真左上：昭和55年(1980年) 麻布校舎玄関 ◇写真提供：法政大学史委員会

写真右上：昭和27～40年(1952～65年) 麻布校舎 ◇写真提供：法政大学史委員会

写真左下：昭和28年(1953年) 麻布校舎 ◇写真提供：法政大学史委員会

写真中下：平成26年(2014年) 法政大学跡地付近

写真右下：平成26年(2014年) 法政大学跡地付近

麻布にあった大学（駒澤大学・電気通信大学）



明治～大正時代：曹洞宗大学林専門学校（曹洞宗大学）



平成26年（2014年）：毛利庭園

曹洞宗大学林専門学校
→駒澤大学（現在）

明治15年（1882年）、麻布北目ヶ窪に開校し、明治38年（1905年）、曹洞宗大学に改称、駒沢に移転する大正2年（1913年）までの約30年間は港区六本木にあった。



昭和30～40年代（1955～1965年）頃：南麻布四丁目（都立住宅をはさみ安立電気本社を望む）



平成26年（2014年）：東京タワー西側の脚付近



平成26年（2014年）：ニュー山王ホテル付近



昭和43年（1968年）頃：広尾病院から南麻布四丁目（天現寺橋交差点）を望む

国立電気通信大学

大正7年（1918年）、国立電気通信大学、（通称：電通大）のルーツとなる電信協会管理無線電信講習所が麻布区飯倉町4丁目4番地（東京タワーの西側の脚付近）にあった小幡幼稚園の2階に創設された。当時、無線通信士の育成をめざしたその場所が、いま首都圏の電波を捕る要所になっている偶然は面白い。

電信協会管理無線電信講習所の前身「帝国無線電信講習会」は、安中電機製作所（現アンリツ（株））が大正5年（1916年）、港区の自社工場内に開設した。安中電機製作所は天現寺橋交差点そば、現在のニュー山王ホテル付近にあった。

この写真の撮影者がたいてい麻布区在住の個人で、この写真の提供は、駒澤大学と電気通信大学の協賛により行われています。

作成年度：平成26年度

写真左上：明治～大正時代 曹洞宗大学林専門学校（曹洞宗大学） ◇写真提供：駒澤大学禅文化歴史博物館

写真右上：平成26年（2014年） 毛利庭園

写真左中：昭和30～40年代（1955～1965年）頃 南麻布四丁目（都立住宅をはさみ安立電気本社を望む）
◇写真提供：豊田幸雄氏

写真右中（上）：平成26年（2014年） 東京タワー西側の脚付近

写真右中（下）：平成26年（2014年） ニュー山王ホテル付近

写真下：昭和43年（1968年）頃 広尾病院から南麻布四丁目（天現寺橋交差点）を望む ◇写真提供：豊田幸雄氏



平成 21 年：政策研究大学院大学の卒業式
世界中から学びに来る学生達、背景は現在も保存されている東京大学生産研究所の建物の一部。



平成 21 年：国立新美術館



六本木にてロケット研究が行われていた当時の国産ロケットカッパ(K-8)。
この K-8 型は各種の宇宙観測を可能にし、電離層の中の昼夜のイオンの分布などを世界で初めて観測するなど、本格的な観測ロケットとして世界の注目を浴びた。



(右)平成 21 年：国立新美術館から眺める空(宇宙)
当時のロケット研究者も同じ空を見上げていたことだろう。

開発メンバーの集合写真

中心に日本の宇宙開発・ロケット開発の父糸川英夫博士の若かりし頃の姿。



平成 22 年：JAXA 相模原キャンパスに保存されている、M-V ロケット。小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げられたロケットとしても有名。

宇宙につながる麻布

現在の政策研究大学院大学や国立新美術館のある場所には、糸川英夫教授がペンシルロケット等の研究・開発を行っていた東京大学生産技術研究所が設けられていた。実際の燃焼試験設備等は千歳実験所として西千歳に置かれていたが、生産技術研究所に所属する教授陣の研究室は六本木にあった。

当時、宇宙研究部門は組織化されておらず、様々な研究室から有志が参加して実施されており、実験データの研究会や試験の実施に係る打ち合わせ等は六本木で行われていたようだ。

昭和 37 年(1962 年)から、昭和 39 年(1964 年)に東京大学駒場キャンパス内に「東京大学宇宙航空研究所」が設置され、日本が名実ともに宇宙開発の拠点を有するまでの 2 年間、主だった関係者は六本木の地に集まり、研究に取り組んでいた。

作成年度：平成 23 年度

写真左上：平成 21 年(2009 年) 政策研究大学院大学の卒業式

写真右上：平成 21 年(2009 年) 国立新美術館

写真左中(2 点)：六本木にてロケット研究が行なわれていた当時の国産ロケットカッパ(K-8) ◇写真提供：JAXA/ISAS

写真右中(3 点)：平成 21 年(2009 年) 国立新美術館

写真左下：開発メンバーの集合写真 ◇写真提供：JAXA/ISAS

写真右下：平成 22 年(2010 年) JAXA 相模原キャンパスに保存されている、M-V ロケット

今なお流れる麻布の水脈



作成年度：平成 23 年度

写真(このパネルに掲載されている全ての写真)：平成 22 年度～平成 23 年度のまち歩き・撮影による



平成 24年(2012年)：六本木ヒルズ展望台より見た富士山。



平成 24年(2012年)：新富士見坂

かつては、麻布の台地からはるか西に富士山を望むことができた。ビルやマンションが建ち並ぶ現在、もはや街中からその姿を拝むことはできず、「富士見坂」という坂の名だけが残されている。



昭和 50年(1975年)：富士見坂



平成 21年(2009年)：富士見坂



右の絵は、高速道路が建設される前の霞町周辺(西麻布一→三丁目一帯)の街並みと、そこから眺めた富士山の姿を思い出しながら描いたもの。

下の写真は麻布十番三丁目にある建物の12階からの眺め。



平成 24年(2012年)：麻布から見た富士山(3点とも)。

2012年4月24日撮影。写真提供：田口重久氏

Copyright © 2012

作成年度：平成 25 年度

写真左上：平成 24 年(2012 年) 六本木ヒルズ展望台より見た富士山

写真右上：平成 24 年(2012 年) 新富士見坂

写真左中：昭和 50 年(1975 年) 富士見坂 ◇写真撮影：田口政典氏 / 写真提供：田口重久氏

写真中中：平成 21 年(2009 年) 富士見坂

写真(絵)右中：高速道路が建設される前の霞町周辺の街並みと、そこから眺めた富士山の姿を思い出しながら描いたもの

写真下(3 点)：平成 24 年(2012 年) 麻布から見た富士山



午前 7時 29分



午前 7時 35分



午前 7時 43分

平成 24年 5月 21日、日本南岸沿いの広い範囲で金環日食が見られた。東京都内も中心部に当たり、雲の合間を通して、リングになった太陽を観望することが出来た。
リングになる最大食分は 7時 34分 30秒頃。この瞬間を見ようと、有栖川宮記念公園にも早朝から多くの人々が集まった。



金環日食をひと目見ようと、有栖川宮記念公園に集まった人々。



太陽の約 87%が月に隠されると、夕方のような暗さに、それに反応して園内の照明が灯った。



肉眼での太陽(日食)観測の際には必ず「日食グラス」を使ってください。太陽は決して直接肉眼で見えてはいけません。失明の危険があります。



太陽がリング状になると、三日月状になった「木漏れ日」が地面に沢山写し出された。

作成年度：平成 25 年度

写真(左下の写真を除く)：平成 24 年(2012 年) 5 月 21 日撮影

写真左下：日食グラス ◇資料提供：国立天文台(NAOJ)

麻布で見られた皆既月食



麻布野道前付近からは東京タワー上空に皆既月食が見えた。



皆既後に現れた九月



六本木ヒルズで撮影する人々



麻布地区総合支所3階より 左から「18:59頃」、「18:53頃」、「18:51頃」



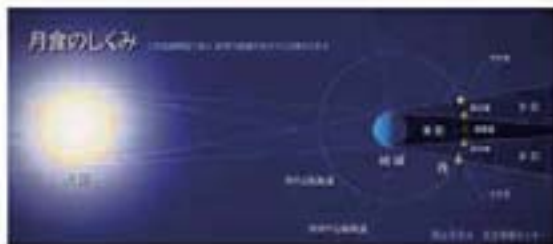
六本木ヒルズより「18:51頃」



麻布野道付近から見物する人々

平成26年(2014年)10月8日、曇っていない夜であれば、日本全国で皆既月食が見えた。麻布では、皆既月食直前に曇り、皆既月食終了直後に晴れ間が出て撮影ができた。
皆さんご存知の通り、月食は太陽と地球と月が一直線上に並んだ日、ちょうど満月の時に起こる。太陽の光を地球が受けると、その反対側に地球の大きな影ができ、その影の中を月が通り抜ける時に見られるのが月食。影の中心付近を通り過ぎると皆既月食、中心から離れた影の縁付近を通り過ぎると部分月食として見られる。満月から次の満月までの約29.5日、ほぼ毎月起こるはずだが、太陽の通り道(黄道)と月の通り道(白道)とは約5度傾いているため、毎月起こる事はない。

この1ページに掲載されている写真はすべて撮影：中島 2014年10月8日撮影
資料提供：国立天文台 天文情報センター



作成年度：平成 26 年度

写真：平成 26 年(2014 年) 10 月 8 日撮影

◇資料提供：国立天文台 天文情報センター



「麻布未来写真館」親子ワークショップ

「麻布未来写真館」とは、麻布地区への愛着を深め、まちの変化を写真等によって保存していくことを目的に麻布地区総合支所が実施する事業です。麻布未来写真館の趣旨でもある、「麻布に暮らす、より多くの人々に身近な「まち」の魅力を知ってもらい、地区への愛着を深める」ことを目的として、今回、地元企業である富士フイルム株式会社の協力のもと、「親子ワークショップ」を開催いたしました。

「親子による、世代を超えた昔と今の記憶の共有」・「未来に向けて記録をつづる楽しみ」

写真を撮影するプロセスには、被写体を記録するだけでなく、撮影者の記憶とともに記録し、カタチとしてつづる楽しみも含まれています。今回のワークショップを通じて、親子がふれ合いながら麻布のまちを歩き、昔と今の時間を共有するとともに、未来へ残すアルバムとして「つづっていく」ことを体験していただけたと思います。



平成33年1月15日(土)・16日(日)「麻布未来写真館」親子ワークショップ

作成年度：平成22年度

「麻布未来写真館」親子ワークショップ

麻布未来写真館の趣旨である「麻布に暮らす、より多くの人々に身近な「まち」の魅力を知ってもらい、地区への愛着を深める」ことを目的として、平成23年1月に、地元企業である富士フイルム株式会社の協力のもと、「親子ワークショップ」を開催いたしました。

麻布の祭り



平成 24年(2012年)：日赤通り祭り



平成 24年(2012年)：霞町祭り



平成 24年(2012年)：かかし祭り



平成 24年(2012年)：ドイツフェスティバル



平成 24年(2012年)：酉の市(麻布十番)



昭和の記憶—古いアルバムから麻布のお祭りの写真をまとめました。

作成年度：平成 25 年度

写真左上：平成 24 年(2012 年) 日赤通り祭り

写真右上：平成 24 年(2012 年) 霞町祭り

写真左中：平成 24 年(2012 年) かかし祭り

写真右中(上)：平成 24 年(2012 年) ドイツフェスティバル

写真右中(下)：平成 24 年(2012 年) 酉の市(麻布十番)

写真下：昭和の記憶—古いアルバムから麻布のお祭りをまとめました。

その他

今に残るまち並み、変わりゆくまち並み



平成26年(2014年)：麻布台三丁目付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目付近



平成26年(2014年)：麻布永坂町付近



平成26年(2014年)：麻布永坂町付近



平成26年(2014年)：麻布永坂町付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目、植木坂付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目、植木坂付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目、植木坂付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目、鮫坂付近



平成26年(2014年)：麻布台三丁目、鮫坂付近

作成年度：平成 25 年度

写真①：麻布台三丁目付近

写真②：麻布台三丁目付近

写真③：麻布台三丁目付近

写真④：麻布永坂町付近

写真⑤：麻布永坂町付近

写真⑥：麻布永坂町付近

写真⑦：麻布台三丁目、植木坂付近

写真⑧：麻布台三丁目、植木坂付近

写真⑨：麻布台三丁目、植木坂付近

写真⑩：麻布台三丁目、鮫坂付近

写真⑪：麻布台三丁目、鮫坂付近

撮影年：平成 26 年(2014 年)

麻布（桜花）



平成25年(2013年)：麻布台一丁目付近

①



平成25年(2013年)：西麻布一丁目付近(都立青山公園)

②



平成25年(2013年)：西麻布三丁目付近

⑤



平成25年(2013年)：六本木七丁目付近

⑨



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近

③



平成25年(2013年)：有栖川宮記念公園

⑥



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近(毛利庭園)

⑩



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近

④



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近(さくら坂)

⑦



平成25年(2013年)：麻布台一丁目付近(雁木坂)

⑪



平成25年(2013年)：麻布十番二丁目付近(暗闇坂下)

⑧

作成年度：平成 25 年度

写真①：麻布台一丁目付近

写真②：西麻布一丁目付近(都立青山公園)

写真③：六本木六丁目付近

写真④：六本木五丁目付近

写真⑤：西麻布三丁目付近

写真⑥：有栖川宮記念公園

写真⑦：六本木六丁目付近(さくら坂)

写真⑧：麻布十番二丁目付近(暗闇坂下)

写真⑨：六本木七丁目付近

写真⑩：六本木六丁目付近(毛利庭園)

写真⑪：麻布台一丁目付近(雁木坂)

撮影年：平成 25 年(2013 年)



平成25年(2013年)：有栖川宮記念公園



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近



平成25年(2013年)：元麻布一丁目付近(善福寺)



平成25年(2013年)：有栖川宮記念公園



平成25年(2013年)：有栖川宮記念公園



平成25年(2013年)：有栖川宮記念公園



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近、六本木三丁目付近



平成25年(2013年)：六本木六丁目付近



平成25年(2013年)：六本木一丁目付近、有栖川宮記念公園



⑥



⑫



⑬

平成25年(2013年)：南麻布五丁目付近(都立中央図書館)、六本木二丁目付近

作成年度：平成 25 年度

写真①：有栖川宮記念公園

写真②：有栖川宮記念公園

写真③：六本木五丁目付近

写真④：六本木三丁目付近

写真⑤：六本木一丁目付近

写真⑥：有栖川宮記念公園

写真⑦：六本木六丁目付近

写真⑧：有栖川宮記念公園

写真⑨：元麻布一丁目付近
(善福寺)

写真⑩：有栖川宮記念公園

写真⑪：六本木六丁目付近

写真⑫：南麻布五丁目付近
(都立中央図書館)

写真⑬：六本木二丁目付近

撮影年：平成 25 年(2013 年)

麻布 昼と夜



六本木七丁目付近 第1回六本木ハロウィンパレード



六本木ヒルズから東京タワーを望む



六本木七丁目付近 第1回六本木ハロウィンパレード



六本木五丁目付近 ハロウィンの夜



六本木ヒルズから東京タワーを望む



六本木五丁目付近 ハロウィンの夜



麻布十番駅付近



けやき坂



けやき坂



麻布十番商店街



六本木五丁目 ロアビル前



六本木交差点付近

©2014年10月撮影されている写真について/撮影:平成26年(2014年)

Photo:Shutterstock

作成年度：平成 26 年度

- 写真①：六本木七丁目付近
- 写真②：六本木五丁目付近
- 写真③：六本木ヒルズから
- 写真④：六本木ヒルズから
- 写真⑤：六本木七丁目付近

- 写真⑥：六本木五丁目付近
- 写真⑦：麻布十番駅付近
- 写真⑧：けやき坂
- 写真⑨：けやき坂
- 写真⑩：麻布十番商店街

- 写真⑪：六本木五丁目 ロアビル前
- 写真⑫：六本木交差点付近

撮影年：平成 26 年(2014 年)



西麻布いきいきプラザ等複合施設



麻布保育園



麻布図書館



麻布保育園



麻布保育園



麻布図書館



西布子ども中高生プラザ等複合施設



旧三河台中学校発掘現場



旧三河台中学校発掘現場



六本木安全安心憲章



旧三河台中学校発掘現場



東京六大学野球優勝パレード(西麻布)

このパレードは撮影された1年ほど前にあつて、撮影は平成26年(2014年)

作成年度：平成 26 年度

写真①：西麻布いきいきプラザ等複合施設

写真②：麻布保育園

写真③：麻布図書館

写真④：麻布保育園

写真⑤：麻布保育園

写真⑥：麻布図書館

写真⑦：麻布子ども中高生プラザ等複合施設

写真⑧：旧三河台中学校発掘現場

写真⑨：旧三河台中学校発掘現場

写真⑩：六本木安全安心憲章

写真⑪：旧三河台中学校発掘現場

写真⑫：東京六大学野球優勝パレード(西麻布)

撮影年：平成 26 年(2014 年)

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

港区麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を受けながら、撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影等を実施し、パネル展を開催しました。

区民参画組織「麻布を語る会」とは

港区麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成 27 年 3 月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区版基本計画策定」・「地域情報の発信」・「協働事業提案制度」の 4 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

III . パネル展の開催

平成 21 年度 パネル展スケジュール

◆パネル展(麻布フェスタ)

会場：港区麻布地区総合支所 ロビー及び階段(B1 階～ 2 階)
平成 21 年 10 月 25 日(日) 10:30～15:00

◆パネル展

会場：港区役所 ロビー
平成 22 年 2 月 8 日(月)～2 月 10 日(水) 8:30～17:00

会場：フジフィルムスクエア ホワイトエ
平成 22 年 2 月 19 日(金)～3 月 4 日(木) 10:00～19:00

会場：港区麻布地区総合支所 ロビー
平成 22 年 3 月 8 日(月)～3 月 19 日(金) 8:30～17:00



パネル展ポスター (麻布フェスタ)

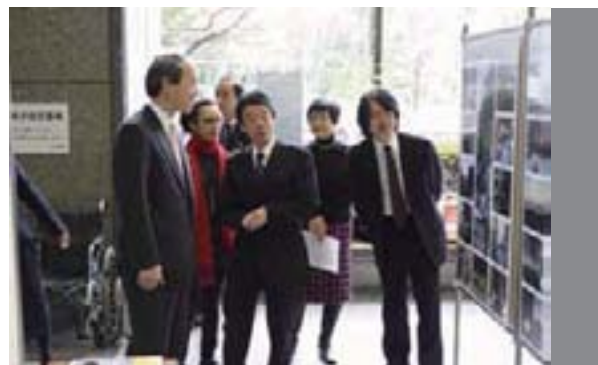


パネル展ポスター

パネル展等の様子



フジフィルムスクエア ホワイトエ



港区役所 ロビー

Ⅲ．パネル展の開催

平成 22 年度 パネル展スケジュール

◆平成 22 年 11 月パネル展

平成 22 年 11 月 17 日(水) ～ 11 月 27 日(土) 9:00 ～ 17:00

会場：港区麻布地区総合支所 1 階 ロビー

東洋英和女学院 本部・大学院棟 1 階 史料展示コーナー

平成 22 年 11 月 29 日(月) ～ 12 月 10 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：ありすの杜南麻布 1 階 地域交流スペース

◆平成 23 年 2 月パネル展

平成 23 年 2 月 14 日(月) ～ 2 月 25 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：港区麻布地区総合支所 1 階 ロビー

平成 23 年 2 月 28 日(月) ～ 3 月 11 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：港区役所 1 階 ロビー



11月パネル展ポスター



2月パネル展ポスター

親子ワークショップ

平成 23 年 1 月 15 日(土) 10:15 ～ 13:00

会場：フジフィルムスクエア 2 階 コミュニケーションルーム

平成 23 年 1 月 29 日(土) 10:15 ～ 13:00

会場：港区麻布地区総合支所 2 階 保健所 講堂

麻布未来写真館の趣旨でもある「麻布に暮らすより多くの人々に身近な「まち」の魅力を知ってもらい、地区への愛着を深める」ことを目的として、地元企業である富士フィルム株式会社の協力のもと、「親子ワークショップ」を開催いたしました。



親子ワークショップポスター

親子ワークショップの様子



親子ワークショップは平成 23 年 1 月 15 日、1 月 29 日に開催いたしました。 ※技術・会場協力等：富士フィルム株式会社、講師：その江氏（フォトグラファー）

III . パネル展の開催

平成 23 年度 パネル展スケジュール

◆第 1 期パネル展

平成 24 年 2 月 3 日(金) ～ 2 月 23 日(木) 10:00 ～ 19:00

会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

◆第 2 期パネル展

平成 24 年 2 月 20 日(月) ～ 3 月 2 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1 階 史料展示コーナー

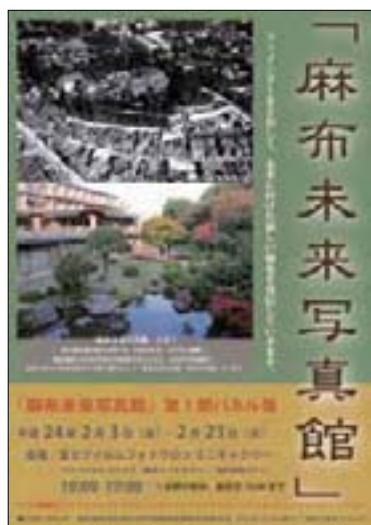
ありすの杜南麻布 1 階 地域交流スペース

港区麻布地区総合支所 1 階 ロビー

◆第 3 期パネル展

平成 24 年 3 月 19 日(月) ～ 3 月 30 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：港区役所 1 階 ロビー



第 1 期パネル展ポスター



第 2 期・第 3 期パネル展ポスター

パネル展等の様子



フジフィルムスクエア ミニギャラリー



ありすの杜南麻布 1 階 地域交流スペース

Ⅲ．パネル展の開催

平成 24 年度 パネル展スケジュール

◆第 1 期パネル展

平成 25 年 2 月 1 日(金) ～ 2 月 14 日(木) 10:00 ～ 19:00
会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

◆第 2 期パネル展

平成 25 年 2 月 12 日(火) ～ 2 月 22 日(金) 9:00 ～ 17:00
会場：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1 階 史料展示コーナー
ありすの杜南麻布 1 階 地域交流スペース
港区麻布地区総合支所 1 階 ロビー

◆第 3 期パネル展

平成 25 年 3 月 4 日(月) ～ 3 月 15 日(金) 9:00 ～ 17:00
会場：港区役所 1 階 ロビー

常設展示

常設の展示として、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース
及び港区麻布地区総合支所 2 階の通路での展示を行いました。



第 1 期パネル展ポスター



第 2・3 期パネル展ポスター

パネル展等の様子



港区役支所 ロビー



東洋英和女学院 史料展示コーナー



港区麻布地区総合支所 2 階



有栖川宮記念公園管理事務所 掲示スペース

Ⅲ．パネル展の開催

平成 25 年度 パネル展スケジュール

◆第 1 期パネル展

平成 26 年 2 月 7 日(金) ～ 2 月 20 日(木) 10:00 ～ 19:00

会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

◆第 2 期パネル展

平成 26 年 2 月 17 日(月) ～ 2 月 28 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1 階 史料展示コーナー

ありすの杜南麻布 1 階 地域交流スペース

港区麻布地区総合支所 1 階 ロビー

◆第 3 期パネル展

平成 26 年 3 月 18 日(火) ～ 3 月 28 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：港区役所 1 階 ロビー



第 1 期パネル展ポスター



第 2 期・第 3 期パネル展ポスター

パネル展等の様子



分科会の様子（パネル展へ向けた画像選定の様子）



港区麻布地区総合支所 ロビー

Ⅲ．パネル展の開催

平成 26 年度 パネル展スケジュール

◆第 1 期パネル展

会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

平成 27 年 2 月 6 日(金) ～ 2 月 19 日(木) 10:00 ～ 19:00

◆第 2 期パネル展

会場：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1 階 史料展示コーナー

平成 27 年 2 月 16 日(月) ～ 2 月 27 日(金) 9:00 ～ 17:00

会場：港区麻布地区総合支所 1 階 ロビー

平成 27 年 2 月 16 日(月) ～ 2 月 27 日(金) 8:30 ～ 17:00

◆第 3 期パネル展

会場：港区役所 1 階 ロビー (庁舎玄関をに入って右手)

平成 27 年 3 月 2 日(月) ～ 3 月 13 日(金) 8:30 ～ 17:00

会場：麻布子ども中高生プラザ等複合施設 1 階 図書・展示コーナー

平成 27 年 3 月 3 日(火) ～ 3 月 15 日(日) 9:00 ～ 21:30

常設展示

常設の展示として、麻布区民協働スペース ロビーでの展示を行いました。



第 1 期パネル展ポスター



第 2・3 期パネル展ポスター

パネル展等の様子



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



麻布子ども中高生プラザ等複合施設



麻布区民協働スペース ロビー



まち歩きの様子

Ⅳ．携わった方々の声

◇「麻布未来写真館」座長：近藤 敏康

麻布未来写真館は、平成 27 年に創立 6 周年を迎えました。平成 21 年の創立以来、区民協働事業として、麻布の今を麻布にゆかりのあるメンバーならではの視点で写真とキャプションにより記録しつつ、同時に麻布にまつわる古い写真を集めて参りました。毎年、年度末にはフジフィルムスクエア、東洋英和女学院史料展示コーナー、港区麻布地区総合支所ロビー、港区役所ロビーをはじめ公共施設でパネル展を開催すると共に、解説付き写真集にもなる報告書をまとめて参りました。

平成 24 年度からは、有栖川宮記念公園内公園事務所掲示板、麻布地区総合支所二階廊下で、パネルの常設展示を行い、平成 26 年度からは、港区公式ホームページでの写真パネル、報告書の公開がスタート、より多くの方々にご覧頂けるようになりました。

設立からの数年は、麻布未来写真館をご存じの方がほとんどない中、運営されていましたが、民放テレビやケーブルテレビでのご紹介、毎年のパネル展、さらには常設展示、ホームページ、ザ・AZABUをはじめ、港区関連での写真のご利用のおかげで、今では「見た事がありますよ」、「写真パネルを会社ロビーに展示したいので貸して欲しい」、「会合で写真パネルを見せたい」等、お声をかけて頂きました。現在では報告書を東京都立中央図書館にも収蔵して頂けるまでに、徐々にではありますが成長して参りました。

麻布未来写真館がスタートした平成 21 年の 2 年後には、東日本大震災が発生、麻布地区の震災後の様子や、東京タワーの先端のアンテナが曲がった景色を記録に残しました。その後も大規模開発を中心とした街並みの変化が続き、その勢いは現在も 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、加速している様に見受けられます。

今回 6 周年を記念して、過去の活動で制作した、写真パネル、報告書より、代表的な写真を集めた、解説付き写真資料にもなる、記念誌を発行すると共に、ホームページにて公開する運びとなりました。歴代の座長、副座長をはじめ、ご参加のみなさま、写真提供や、情報提供などにご協力頂きました皆様の並々ならぬ努力の賜物と深く敬意を表しますとともに、歴代の麻布総合支所関係者の皆様、支援事業者の皆様、関係各位の日頃からのご支援に厚く御礼申し上げます。

麻布未来写真館事業も創立 6 周年という節目を迎えた事を一つの契機と捉え、これまで諸先輩が築きあげてこられました実績を礎(いしずえ)に、次の発展の為、今まで以上に港区麻布地区の活性化、安全安心なまちづくりなど、写真パネルを通じて記録、広報を通じご協力すると共に、地元へ愛着を持つきっかけ作り、将来の麻布人の方々へ、現在の麻布人からのメッセージも込めたパネル作りなどにも留意した活動を、未長く続けて参りたく考えております。

これからも麻布未来写真館事業へのご支援、ご指導、ご協力、古い写真や、古い麻布の音の録音テープのご提供など、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

◇ メンバーからの声

私は麻布で生まれて長く麻布暮らしですが、学生時代は六本木のスクエアビルのディスコに通ったり、仙台坂下でバギーパンツを買ったりしました。私は60歳が近いですが、これからの自分の情熱は何かと思うと故郷、麻布です。若い人も都心の色々な地域に関心が強まっています。色々な街並みがあり、とても樹木が多く鳥の声が元気で、可愛い猫がいる麻布が好きです。
(小山浩)

歴史と伝統ある学舎や庭園、老舗などが点在し、落ち着いた雰囲気を感じさせる昼の街並み。ネオンの輝きとともに雑踏する大通り。どちらの麻布も愛しています。

姿を消していった店や建物は数え切れませんが、近代的なビルの狭間で、20年、30年と人びとに親しまれ、愛されている店や場所も健在で、たのもしく感じることも少なくありません。

いつも新鮮な驚きと感動を与えてくれる麻布未来写真館の活動に心から感謝しています。
(椿由美子)

この事業に参加するまで、私にとって麻布といえば、美術館・ギャラリー巡り、前職での大使館訪問がメインで「点的」繋がりでしかありませんでした。それがひょんな縁からこの麻布未来写真館に参加することになりました。麻布在住の大先輩方に色々教わり、町歩きをしていく中で、「面的」かつ「歴史的」広がりを持って町を見ることとなり、本当に貴重な機会となりました。このような豊かな事業がさらに発展することを願っています。(櫻井綾)

◇ 事務局からの声

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成21年度から平成26年度までの6年間に取り組んできた活動の記録をまとめたものです。

麻布未来写真館はファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信してきました。

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

これからも、「麻布」の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

V . 参考資料

< 主な参考文献・資料等 >

『増補 写された港区 三(麻布地区編) ～麻布・六本木～ほか』 港区教育委員会
港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると(<http://www.minato-ala.nrt/>) など

< 古い写真についての提供および資料等 >

河村 かずふさ氏、桜井昭一氏、豊田幸雄氏、田口重久氏、齋藤 富士郎氏、佐藤 元紀氏、渡邊 稔子氏、長谷川幸雄氏、今清水 正巳氏、木村 雅彦氏、相田 清隆氏、黒鉄 ヒロシ氏、桜井 慧雄氏、早川 一夫氏、東京大学生産技術研究所、東京アメリカンクラブ、東京大学物性研究所、六本木商店街振興組合、森ビル株式会社、麻布西野園、東洋英和女学院、港区立麻布小学校、港区立筈小学校、港区立南山小学校、法政大学史委員会、駒澤大学禅文化歴史博物館、国立天文台天文情報センター、港区立港郷土資料館、国立天文台 (NAOJ)、JAXA/ISAS、国土交通省国土地理院、
『江戸名所図会』港区立港郷土資料館所蔵、港区立港郷土資料館(『平成 18 年度特別展 UKIYO-E 一名所と版元一』、『東京案内』、『区政要覧』等)、
『港区議会史 通史編』港区議会、『増補 写された港区 三(麻布地区編) ～麻布・六本木～』、『麻布区史』、『東京写真帖』、『アルバム東京文学散歩』、『昭和御大礼奉祝志』、『みなと写真散歩』、『東京案内』、『麻布鳥居坂警察署誌』 (順不同)

< 技術・会場協力等 >

達川 清氏 (フォトグラファー)、その江 氏 (フォトグラファー)、フジフィルム スクエア (富士フィルム株式会社)、学校法人東洋英和女学院、ありすの杜 南麻布、森ビル株式会社、麻布子ども中高生プラザ等複合施設 (順不同)



パネル展の様子



分科会の様子

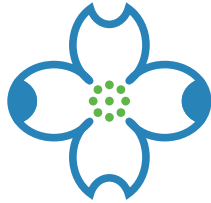


まちあるきの様子



分科会の様子

区 の 木



ハナミズキ

ミズキ科
北米原産 外来種
落葉広葉樹

区 の 花



アジサイ

ユキノシタ科
日本（関東南部）原産
落葉広葉樹（1.5～2.0 m）



バラ

バラ科
日本、中国、欧州原産
常緑落葉低木つる



港区のマークは、昭和 24 年 7 月 30 日に制定しました。旧芝・麻布・赤坂の 3 区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
活動の記録（平成 21 年度～平成 26 年度）

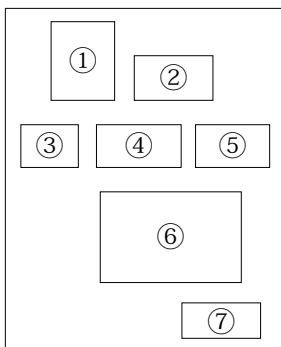
刊行物発行番号
26301-1435

平成 27 年(2015 年) 3 月 発行

発行 港区 麻布地区総合支所 協働推進課

〒 106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812



《表紙の写真》

- ① 昭和 30 年代：筭小学校旧校舎入り口 ◇写真提供：港区立筭小学校
- ② 昭和 40 年頃(1965 年頃)：飯倉片町付近 ◇写真提供：渡邊稔子氏
- ③ 昭和 42 年(1967 年)：飯倉交差点付近 ◇写真提供：河村かずふさ氏
- ④ 明治から大正時代：麻布教会(鳥居坂教会の前身) ◇写真提供：東洋英和女学院
- ⑤ 昭和 11 年(1936 年)：雪の降る道 ◇写真提供：東洋英和女学院
- ⑥ 昭和 32 年頃(1957 年頃)：ツイナーの橋 建築前航空写真
◇写真提供：早川一夫氏 写真撮影：佐藤翠陽氏
- ⑦ 大正 3 年(1914 年)：開園時の園舎 ◇写真提供：東洋英和女学院

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

「麻布未来写真館」

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
活動の記録(平成21年度～平成26年度)

これまで作成したパネルや活動報告は、Webでもご覧になれます。

港区公式ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>

麻布未来写真館

検索 🔍



「麻布未来写真館」はこちら

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！

未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので、港区麻布地区総合支所までお寄せください。

詳細につきましては、協働推進課地区政策担当までお問合せください。

お問合せ

TEL : 03-5114-8812